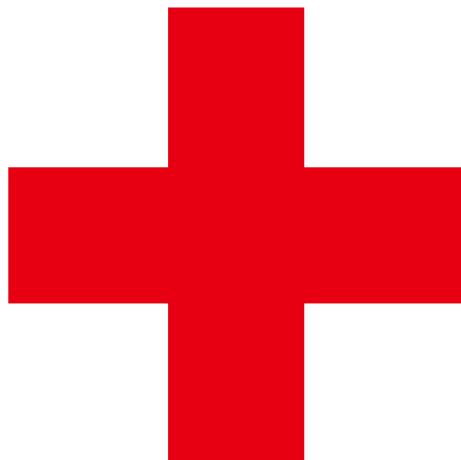


令和5年度
業務年報



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

自 令和 5 年 4 月 1 日

至 令和 6 年 3 月 31 日

 日本赤十字社 島根県支部
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るために、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

国際赤十字・赤新月運動の基本原則

■人道 (Humanity)

国際赤十字・赤新月運動（以下、赤十字・赤新月）は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えるという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的および国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字・赤新月は、すべての国民間の相互理解、友情、協力、および堅固な平和を助長する。

■公平 (Impartiality)

赤十字・赤新月は、国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字・赤新月はただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合もっとも急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

■中立 (Neutrality)

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は、戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しない。

■独立 (Independence)

赤十字・赤新月は独立である。各国の赤十字社、赤新月社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律に従うが、常に赤十字・赤新月の諸原則にしたがって行動できるよう、その自主性を保たなければならない。

■奉仕 (Voluntary Service)

赤十字・赤新月は、利益を求める奉仕的救護組織である。

■単一 (Unity)

いかなる国にもただ一つの赤十字社あるいは赤新月社しかありえない。赤十字社、赤新月社は、すべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行なわなければならない。

■世界性 (Universality)

赤十字・赤新月は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社、赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。

*宣言：第20回赤十字・赤新月国際会議（1965年、ウィーン）

*改定：第25回赤十字・赤新月国際会議（1986年、ジュネーブ）

目 次

I 支部の運営状況

1. 諸会議	P 4
(1) 評議員会	
(2) 監査	
(3) 赤十字業務推進協議会	
2. 令和5年度一般会計歳入歳出決算.....	P 5

II 赤十字会員と社資（会費と寄付金）の募集状況

1. 赤十字会員の募集状況.....	P 6
2. 社資（会費と寄付金）の募集状況.....	P 6
3. 日本赤十字社有功章等の贈呈	P 6
(1) 社資功労	
(2) 役職功労	
(3) 協賛委員功労	
4. 島根県赤十字有功会の活動	P 7
(1) 会員数	
(2) 活動状況	

III 赤十字の普及と広報活動の推進

1. 令和5年全国赤十字大会	P 9
2. 赤十字の普及と広報活動の推進.....	P 9
(1) 赤十字運動月間における活動	
(2) 広報紙及び資料の配布・貸し出し	
(3) ホームページによる情報の発信について	
(4) 日本赤十字社公式マスコットキャラクター『ハートラちゃん』の活用	
(5) イベント等を通じた広報活動の実施について	
(6) 令和5年度『A C T I O N ! 防災・減災プロジェクト』の実施	

IV 事業の実施状況

1. 災害救護活動.....	P 11
(1) 救護体制	
(2) 災害救護訓練	
(3) 救護体制強化のための研修	
(4) 災害関係諸会議	
(5) 災害情報収集、分析、共有について	
(6) 国内及び支部管内の災害救護・救援活動の状況	
(7) 小災害への対応	
(8) 防災ボランティアの活動	
(9) 赤十字防災セミナーの開催	
(10) 日本赤十字社防災教育事業（赤十字防災セミナー）における支部指導者養成研修会の開催	
(11) 主な救護資機材の整備状況	
(12) スポーツ集会等への救護員の派遣	

2. 救護看護師の養成	P 22
(1) 医療施設における救護看護師の養成	
(2) 救護看護師養成奨学金制度	
3. 救急法・健康生活支援講習等の講習普及活動	P 23
(1) 救急法	
(2) 水上安全法	
(3) 健康生活支援講習	
(4) 幼児安全法	
4. 青少年赤十字	P 35
(1) 加盟校とメンバー数	
(2) 活動状況	
5. 赤十字奉仕団	P 44
(1) 奉仕団の概況	
(2) 奉仕団の設置と活動状況	
6. 医療事業・保健衛生活動	P 51
(1) 松江赤十字病院	
(2) 益田赤十字病院	
(3) 隠岐島前地区巡回診療	
7. 血液事業	P 55
(1) 島根県赤十字血液センター	
(2) 献血運動の推進	
8. 社会福祉事業	P 59
(1) 松江赤十字乳児院	
(2) 県内児童福祉施設への援護（『児童福祉施設支援金』の贈呈）	
9. 国際活動	P 60
(1) 海外救援金の取扱い	
(2) 中四国（第5ブロック）各県支部共同国際救援事業	
(3) 第41回N H K海外たすけあいキャンペーン	
(4) 国際人道法セミナーの開催	

＜参考資料＞

- 参考1：評議員・支部役員名簿
- 参考2：支部長・副支部長・監査委員及び支部・施設幹部職員
- 参考3：日本赤十字社島根県支部事務局職員
- 参考4：令和5年度日本赤十字社島根県支部及び各施設の決算概況
- 参考5：日本赤十字社島根県支部現勢
- 参考6：地区分区事務局名簿

I 支部の運営状況

1. 諸会議

(1) 評議員会

島根県支部では、日本赤十字社定款第70条及び第71条に基づき、評議員会を年2回実施し、収支予算、事業計画、収支決算、役員選出等の議案を審議している。

令和5年度は、第102回評議員会を6月に収集形式で開催し、第103回評議員会を2月に文書審議にて実施した。なお、議案は次のとおりで、全議案とも原案どおり承認された。



ア. 第102回評議員会（期日：令和5年6月12日 会場：島根県市町村振興センター 大会議室）

第1号議案 令和4年度 日本赤十字社島根県支部一般会計歳入歳出決算について
第2号議案 令和4年度 松江赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出決算について
第3号議案 令和4年度 益田赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出決算について
第4号議案 令和4年度 松江赤十字乳児院社会福祉施設特別会計歳入歳出決算について
第5号議案 令和4年度 島根県赤十字血液センター事業報告について

イ. 第103回評議員会（文書審議により実施 *令和6年能登半島地震災害対応のため）

第1号議案 令和6年度 日本赤十字社島根県支部事業計画について
第2号議案 令和6年度 日本赤十字社島根県支部一般会計歳入歳出予算について
第3号議案 令和6年度 松江赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出予算について
第4号議案 令和6年度 益田赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出予算について
第5号議案 令和6年度 松江赤十字乳児院社会福祉施設特別会計歳入歳出予算について
第6号議案 令和6年度 島根県赤十字血液センター事業計画について

(2) 監査

支部事務局が、事前に各赤十字施設に対し、事務局監査（事業実施状況聴取）を実施したうえで、令和5年6月5日に、監査委員による令和4年度の島根県支部並びに各赤十字施設の業務の管理及び執行状況の監査を行い、適正であるとの報告を得た。

ア. 事務局監査

令和5年5月19日 対象：島根県赤十字血液センター
令和5年5月19日 対象：松江赤十字乳児院
令和5年5月23日 対象：益田赤十字病院
令和5年5月25日 対象：松江赤十字病院

イ. 監査委員監査

令和5年6月5日 対象：日本赤十字社島根県支部、県内赤十字施設

(3) 赤十字業務推進協議会

社業の振興並びに赤十字業務の一層の推進を図るため、下記のとおり赤十字業務推進協議会を開催した。

開催日 令和6年1月31日

会場 サンラポーむらくも（松江市）

出席者 島根県地域福祉課1名、地区分区21名、支部事務局8名 計30名

報告事項 ①令和5年度社資募集状況について

②令和5年度島根県支部主要事業について

協議事項 ①令和6年度島根県支部事業計画（案）について

②令和6年度島根県支部予算（案）及び

令和6年度地区・分区分別社資目標額（案）について

2. 令和5年度一般会計歳入歳出決算

（単位：円）

【歳入】		【歳出】	
科 目	決算額	科 目	決算額
社資収入	141,896,671	災害救護事業費	51,178,981
補助金及び交付金収入	7,033,850	社会活動費	32,098,801
災害義援金預り金収入	1,194,350	国際活動費	1,155,559
繰入金収入	25,776,000	指定事業地方振興費	1,476,000
雑収入	3,087,801	地区分区交付金支出	13,523,106
前年度繰越金	18,996,877	社業振興費	19,639,857
		基盤設備交付金・補助金支出	500,000
		積立金支出	7,988,898
		総務管理費	26,716,253
		資産取得及び資産管理費	1,712,174
		本社送納金支出	20,763,100
歳入合計	197,985,549	歳出合計	176,752,729
歳入歳出差引額		21,232,820	

Ⅱ 赤十字会員と社資（会費と寄付金）の募集状況

1. 赤十字会員の募集状況

日本赤十字社の活動は、赤十字の理念に賛同し、支援いただく赤十字会員によって支えられている。赤十字会員は、日本赤十字社の組織の基盤をなすものであり、本年度も、一人でも多くの方に赤十字会員に加入していただけるようその募集に努めた。

○赤十字会員数

個人（人）	法人（社）	合計
112,486	478	112,964

○会員（特別会員）数 *左記会員数の内

個人（人）	法人（社）	合計
1,678	478	2,156

2. 社資（会費と寄付金）の募集状況

日本赤十字社の活動資金は、赤十字会員の拠出する会費と、その他寄付金（「会費」と「寄付金」の総称を「社資」という）によって支えられており、地区分区をはじめ、自治会や町内会の皆さまのご理解とご協力を得て、その募集を行っている。

本年度の状況は目標額156,500,000円に対し、総納入額141,420,671円（対前年度22,186,790円減）であり、達成率は、90.4%となった。その内、地区分区の取り扱いは、目標額133,112,200円に対し、納入額101,520,280円（対前年4,285,058円減）であり、達成率は76.3%となった。（別表Ⅰのとおり）

3. 日本赤十字社有功章等の贈呈

日本赤十字社では、社資または社業振興に顕著な功労のあった方々に対し、日本赤十字社有功章社員章等贈与規則に基づき、表彰を行っている。また、功労内容によっては国の表彰制度が適用となるため、適宜、国へ上申している。令和5年度における有功章等の贈呈状況は次のとおり。

（1）社資功労

日本赤十字社社長感謝状	8件（個人1名・法人7社）
日本赤十字社金色有功章	9件（個人4名・法人5社）
日本赤十字社銀色有功章	21件（個人3名・法人18社）

（2）役職功労

日本赤十字社金色有功章	1件（個人1名）
日本赤十字社銀色有功章	1件（個人1名）

（3）協賛委員功労

日本赤十字社銀色有功章	2件（個人2名）
日本赤十字社銀色有功章	4件（個人4名）

4. 島根県赤十字有功会の活動

島根県赤十字有功会は、赤十字に対する支援団体として平成10年に設立され、社資や義援金等への協力をはじめ、赤十字活動に対して様々な支援を行っている。

(1) 会員数 (令和6年3月31日現在)

個人94名 法人97社 計191会員

(2) 活動状況

ア. 会議の状況

名 称	期 日	会 場	備 考
島根県赤十字有功会正副会長会議	4月26日	サンラポーむらくも(松江市)	会長・副会長・事務局 計11名出席
島根県赤十字有功会総会	7月27日	サンラポーむらくも(松江市)	会員・事務局 計45名出席
日赤紺綏・有功会会長協議会総会	10月12日	ANAクラウンプラザホテル広島 (広島県広島市)	副会長・事務局 計2名参加

イ. 研修等の状況

名 称	期 日	会 場	備 考
全国赤十字大会	5月18日	明治神宮会館(東京都渋谷区)	3会員参加
研修親睦旅行	11月14日 ～15日	徳島県徳島市、 兵庫県淡路島他	会員・事務局 計20名参加

ウ. 赤十字社資・国内義援金・海外救援金への協力活動の状況

名 称	内容・状況		
赤十字社資	協力件数・金額	193件	7,765,760円
令和5年5月能登地方地震災害義援金	協力件数・金額	3件	20,000円
令和5年台風第2号等大雨災害義援金	協力件数・金額	1件	5,000円
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	協力件数・金額	2件	193,939円
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	協力件数・金額	4件	238,940円
令和5年7月島根県大雨災害義援金	協力件数・金額	2件	10,000円
令和5年台風第6号災害義援金	協力件数・金額	1件	188,940円
令和5年台風第13号災害義援金	協力件数・金額	2件	191,940円
令和6年能登半島地震災害義援金	協力件数・金額	27件	10,681,827円
ウクライナ人道危機救援金	協力件数・金額	2件	15,609円
2023年トルコ・シリア地震救援金	協力件数・金額	1件	10,200円
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	協力件数・金額	1件	10,000円
2023年モロッコ地震救援金	協力件数・金額	2件	15,000円
2023年リビア洪水救援金	協力件数・金額	2件	15,000円
2023年アフガニスタン地震救援金	協力件数・金額	2件	8,000円
イスラエル・ガザ人道危機救援金	協力件数・金額	3件	18,000円
NHK海外たすけあい	協力件数・金額	40件	471,000円

エ. 赤十字活動への支援事業

対象施設	寄 贈 品	数 量
松江赤十字病院	車いす	5台
益田赤十字病院	洗髪用チェア	1台

令和5年度社資内訳表

地区区分	目標額 (円)	実績額 (円)	達成率	一般社資						法人社資			
				目標額 (円)	会費 (円)	寄付金 (円)	個人住民税 控除扱寄付金 (円)	小計 (円)	達成率	目標額 (円)	指定事業扱 (円)	その他 (円)	小計 (円)
松江市	32,876,600	19,988,950	60.8%	31,798,600	19,312,950	0	0	19,312,950	60.7%	1,078,000	15,000	661,000	676,000
浜田市	12,932,500	10,182,754	78.7%	12,628,500	2,272,600	7,804,754	0	10,077,354	79.8%	304,000	0	105,400	105,400
出雲市	29,521,900	20,953,934	71.0%	28,657,900	17,921,480	1,263,574	0	19,185,054	66.9%	864,000	0	1,768,880	1,768,880
益田市	11,087,400	11,313,652	102.0%	10,812,400	1,518,100	9,037,552	0	10,555,652	97.6%	275,000	0	758,000	758,000
大田市	8,180,200	6,759,830	82.6%	8,004,200	5,707,500	736,330	0	6,443,830	80.5%	176,000	0	316,000	316,000
安来市	7,946,000	6,486,363	81.6%	7,779,000	6,198,440	34,923	0	6,233,363	80.1%	167,000	0	253,000	253,000
江津市	5,851,500	5,318,462	90.9%	5,724,500	5,300,971	17,491	0	5,318,462	92.9%	127,000	0	0	0
雲南市	7,904,400	6,470,765	81.9%	7,718,400	6,419,900	50,865	0	6,470,765	83.8%	186,000	0	0	0
市地区計	116,300,500	87,474,710	75.2%	113,123,500	64,651,941	18,945,489	0	83,597,430	73.9%	3,177,000	15,000	3,862,280	3,877,280
奥出雲町	2,753,400	2,339,640	85.0%	2,683,400	1,978,300	328,340	0	2,306,640	86.0%	70,000	0	33,000	33,000
飯南町	1,091,100	1,032,406	94.6%	1,061,100	1,015,500	16,906	0	1,032,406	97.3%	30,000	0	0	0
川本町	800,100	820,147	102.5%	780,100	792,200	27,947	0	820,147	105.1%	20,000			0
美郷町	1,158,400	1,100,550	95.0%	1,136,400	1,086,000	14,550	0	1,100,550	96.8%	22,000	0	0	0
邑南町	2,436,100	2,168,100	89.0%	2,387,100	2,168,100	0	0	2,168,100	90.8%	49,000	0	0	0
津和野町	1,909,800	1,580,767	82.8%	1,862,800	1,518,400	62,367	0	1,580,767	84.9%	47,000	0	0	0
吉賀町	1,544,600	1,195,900	77.4%	1,506,600	1,195,900	0	0	1,195,900	79.4%	38,000	0	0	0
海士町	573,700	616,306	107.43%	564,700	616,300	6	0	616,306	109.1%	9,000	0	0	0
西ノ島町	783,100	564,822	72.1%	771,100	545,000	19,822	0	564,822	73.2%	12,000	0	0	0
知夫村	179,500	228,400	127.2%	178,500	228,400	0	0	228,400	128.0%	1,000	0	0	0
隱岐の島町	3,581,900	2,398,532	67.0%	3,487,900	1,838,000	560,532	0	2,398,532	68.8%	94,000	0	0	0
町村分区計	16,811,700	14,045,570	83.5%	16,419,700	12,982,100	1,030,470	0	14,012,570	85.3%	392,000	0	33,000	33,000
地区分区計	133,112,200	101,520,280	76.3%	129,543,200	77,634,041	19,975,959	0	97,610,000	75.3%	3,569,000	15,000	3,895,280	3,910,280
支部直扱い	23,387,800	39,900,391	170.6%	11,327,667	13,990,653	13,057,920	1,000,000	28,048,573	247.6%	12,060,133	1,985,000	9,866,818	11,851,818
総合計	156,500,000	141,420,671	90.4%	140,870,867	91,624,694	33,033,879	1,000,000	125,658,573	89.2%	15,629,133	2,000,000	13,762,098	15,762,098

※個人住民税控除対象扱いとなった海外救援金は、上記には含めていないこと。

○参考：令和5年度分 個人住民税控除対象扱いの海外救援金 34件 476,000円

内訳：2023年トルコ・シリア地震救援金	19件	283,000円
2023年モロッコ地震救援金	6件	44,000円
2023年リビア洪水救援金	5件	38,000円
2023年アフガニスタン地震救援金	4件	111,000円

Ⅲ 赤十字の普及と広報活動の推進

赤十字の理念や活動に対する県民への理解を深め、会員の一層の増強を図るため、5月の赤十字運動月間をはじめ、年間を通じ、様々な広報活動に取り組んでいる。

1. 令和5年全国赤十字大会

会員の増強と赤十字思想の普及を図り、今後一層の社業の進展を期するため、日本赤十字社名誉総裁である皇后陛下、名誉副総裁である各宮妃殿下のご臨席のもと、毎年、赤十字運動月間の5月に開催されている『全国赤十字大会』が令和5年度は下記のとおり挙行され、本県からも有功会員、地区分区職員、赤十字奉仕団員、青少年赤十字指導者、支部・施設職員等の17名が参会した。



なお、大会では名誉総裁の皇后陛下から、赤十字活動に顕著な功績のあった個人・法人・団体に対する有功章の授与があり、島根県からも大畠建設株式会社の大畠勉社長が表彰を受けられた。

期 日 令和5年5月18日
会 場 明治神宮会館（東京都渋谷区代々木神園町1番1号）
内 容 プロローグ、式典、実践活動報告

2. 赤十字の普及と広報活動の推進

日本赤十字社では、日本赤十字社創立日（5月1日）や世界赤十字デー（5月8日 *創立者アンリー・デュナンの誕生日）など、赤十字にゆかりの深い5月を赤十字運動月間とし、赤十字への理解と活動資金への協力を呼びかける広報キャンペーンを全国で実施している。

当支部においても、赤十字運動月間を中心に、様々な広報活動に取り組み、赤十字の普及に努めた。

（1）赤十字運動月間における活動

ア. 広報用グッズの配布

各地区分区において、赤十字会員増強運動にかかる協賛委員・自治会役員や会議の参加者などに下記のとおり、広報用グッズを配布いただいた。

広報用グッズの内容 赤十字広報用カットパン

広報用グッズの配布数 11,000枚

イ. 街頭ビジョン広報の実施

松江市にある一畠百貨店立体駐車場の壁面に設置されている街頭ビジョン（『一畠ソルクスヴィジョン（くにびき大橋南詰交差点）』）において、5月1日～5月31日の1カ月間にわたり、赤十字運動月間をPRするCM動画を放映した。

ウ. メディアを活用した活動

地区分区と連携し、各ケーブルテレビ放送の協力を得て、5月の赤十字運動月間を中心に、日赤本社作成の広報CMのスポット放送を実施した。

エ. レッドライトアッププロジェクト2023

「世界赤十字デー」である5月8日を中心に、全国の赤十字施設や歴史的建造物やランドマークとなる施設などを赤十字カラーである赤色にライトアップし赤十字への理解と共に感を広く国民に呼

びかける本プロジェクトに対して、島根県支部においても次のとおり実施した。

実施日時 5月7日・8日・9日の3日間

*各日共通：日没後～22時

実施場所 松江城、山陰中央テレビジョン放送株式会社鉄塔



(2) 広報紙及び資料の配布・貸し出し

種別	名 称	備 考 (配布・貸出先等)
日本赤十字社発行	赤十字新聞（毎月発行）	地区分区、社会教育施設、奉仕団、有功会員、青少年赤十字加盟校、報道機関、その他に配布
	赤十字運動月間パンフレット	地区分区（協賛委員等）、社会教育施設、その他に配布
	赤十字広報ポスター	地区分区、社会教育施設、その他に配布
島根県支部発行	しまねの赤十字	県内全体に配布 (年2回発行〔春号183,000部、秋号181,000部発行〕)
	赤十字への協力について	地区分区（協賛委員等）に配布
	赤十字活動各種パネル	地区分区、赤十字施設、青少年赤十字加盟校、その他に貸出
	青少年赤十字 SHIMANE	県内全小中高校、地区分区、その他に配布

(3) ホームページによる情報の発信について

令和3年4月より、リニューアルを行い、ホームページによる広報を実施している。

(4) 日本赤十字社公式マスコットキャラクター『ハートラちゃん』の活用

日本赤十字社公式マスコットキャラクター『ハートラちゃん』を広報紙やパネルボード等に掲出。また、県内赤十字施設や地区分区における広報イベント等にて『ハートラちゃん』の着ぐるみを使用し、赤十字活動のPRに広く活用した。



(5) イベント等を通じた広報活動の実施について

県民の皆さんに、より赤十字の活動を身近に感じてもらい、よき理解者として赤十字をご支援いただけるよう、下記のとおりイベント等を通じた広報活動を行った。

イベント名	期 日	会 場	実施内容
『エシカルマルシェ』 主催：出雲市赤十字奉仕団（出雲市連合婦人会）	9月23日	朱鷺会館（出雲市）	救援物資・パネル展示、 救急法ミニ講習コーナー等
第10回輝けしまね町村フェスティバル 主催：島根県町村会	9月30日 10月1日	TSK山陰中央テレビ本社 (松江市)	救援物資・パネル展示、 防災クイズコーナー等

(6) 令和5年度『ACTION！防災・減災プロジェクト』の実施

日本赤十字社では、平成27年度から毎年、東日本大震災が起きた3月に、地域社会に向け「防災・減災への備え」を訴求するプロジェクト「ACTION！防災・減災」を実施している。

島根県支部においても、このプロジェクトの趣旨に賛同いただいた県内の27社（団体）とともに、このプロジェクトに取り組んだ。

IV 事業の実施状況

1. 災害救護活動

被災された人々を救護する業務は、日本赤十字社の最も重要な事業であり、根幹をなすものである。「災害救助法」(同法に基づき支部は島根県と救助業務委託契約を締結)及び「災害対策基本法」、並びに「大規模災害特別措置法」においても、国及び地方公共団体の行う防災・救助業務への協力が義務付けられている。当支部では、常に災害に備え、救護員の確保と訓練の実施、救護資機材の充実に努め、救護体制の確保に万全を期している。



(1) 救護体制

ア. 救護班要員の登録式と研修

6月2日：松江赤十字病院 3個班

5月16日：益田赤十字病院 2個班

区分	常備 救護班数	医師 (班長含む)	薬剤員	赤十字 看護師長	赤十字 看護師	主事 (兼:自動車操作要員)
松江赤十字病院	3個班	6人	3人	3人	9人	3人
益田赤十字病院	2個班	4人	2人	2人	6人	2人

※他に、日赤島根県支部への災害時支援要員として、松江赤十字病院4人、益田赤十字病院2人、島根県赤十字血液センター2人を登録、研修する。

イ. その他の救護体制

①日赤災害医療コーディネートチーム

1) コーディネーター

所 属	職 名
益田赤十字病院	救急部長
松江赤十字病院	血液内科副部長
松江赤十字病院	救急部医師

2) コーディネートスタッフ

所 属	職 名
日本赤十字社島根県支部	事業推進課長
松江赤十字病院	会計課長
松江赤十字病院	看護師長 2名
松江赤十字病院	薬剤師
益田赤十字病院	看護副部長
益田赤十字病院	看護係長
益田赤十字病院	理学療法士

※平成25年10月1日付で本社と各都道府県支部単位に、医師である災害医療コーディネーターとその支援にあたるコーディネートスタッフによって構成される「日赤災害医療コーディネートチーム」を設置した。日本赤十字社救護規則第7条に定める本社又は支部の災害救護実施対策本部要員の一員として、専門的な助言や自治体・他の医療救護機関等との連携や調整等の役割を担う。



②こころのケア指導者

区分	日本赤十字社 島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	島根県赤十字 血液センター
医 師	—	—	—	—
看護師長	—	9名	3名	—
看 護 師	1名	1名	1名	—
主 事	—	—	2名	1名

③島根県原子力防災緊急被ばく医療体制における医療班

区分	日本赤十字社島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院
医療本部協力	1名	—	—
スクリーニング	—	2チーム（18名）	2チーム（18名）
診断除染	—	2チーム（14名）	—
初期被ばく医療	—	1チーム（8名）	—

④災害派遣医療チーム（D M A T）

区分	医師	看護師長	看護師	主事
松江赤十字病院	5名	3名	5名	6名
益田赤十字病院	3名	2名	4名	4名

※平成29年7月4日付で島根県と松江赤十字病院ならびに益田赤十字病院間で「島根D M A Tの派遣に関する協定書」を締結し、災害の急性期において知事からの要請を受けて出動し、原則、県内の災害現場で救命活動を行う（ただし、他の都道府県から派遣要請があり、必要と認めた場合には県外へも派遣する）。

また、平成22年10月16日付けで「中国地区D M A T協議会」が設置されており、中国5県の緊密な連携を図り、中国地区でのD M A T活動がスムーズに行われるよう、訓練や研修を実施している。



(2) 災害救護訓練

No.	訓 練 名	期 日	会 場	参加人数 (人)				
				島 根 県 支 部	松 江 赤 十 字 病 院	益 田 赤 十 字 病 院	島 液 根 セ ン 赤 タ リ 字	鳥 取 赤 十 字 病 院
1	EMI S衛星通信訓練	6月1日	松江赤十字病院	-	2	-	-	-
2	島根県行政防災無線通信訓練	6月14日 6月15日	日赤島根県支部 松江赤十字病院 益田赤十字病院	2	2	2	-	-
3	島根県総合防災訓練 (図上訓練)	9月1日	松江市	2	4	-	-	-
4	益田赤十字病院 災害対応訓練	9月15日 9月16日	益田赤十字病院	2	10	100	-	-
5	出雲空港航空機事故 消火救難総合訓練	9月21日	出雲空港	-	6	-	-	-
6	大規模地震時医療活動訓練	9月30日	香川県、愛媛県	-	4	6	-	-
7	第5ブロック各県支部 合同災害救護訓練	10月11日	愛媛県	4	-	7	-	-
8	益田市防災訓練	10月22日	益田市	1	-	1	-	-
9	島根県総合防災訓練 (実動訓練)	10月29日	安来市	5	6	-	1	8
10	中国地区D M A T連絡協議会 (実働訓練)	11月25日	岡山県	-	4	6	-	-
11	石見空港航空機事故 消火救難総合訓練 (通報訓練)	11月27日	益田赤十字病院	-	-	2	-	-
12	原子力災害対応基礎研修会	12月4日	徳島県	2	2	-	-	-
13	松江赤十字病院 災害対応訓練	2月16日	松江赤十字病院	2	40	-	-	-



(3) 救護体制強化のための研修

日本赤十字社（本社）及び島根県支部が災害救護事業にかかる研修事業を実施し、救護要員の資質の向上と防災ボランティアの養成を行った。

No.	訓 練 名	期 日	会 場	参加人数 (人)				
				島 根 県 支 部	松 江 赤 十 字 病 院	益 田 赤 十 字 病 院	島 液 根 セ ン 赤 十 字 病 院	防 災 ボ ラ ン チ ア リ ー ダ ー
1	島根県支部常備救護班員・支援員登録に係る研修会	5月16日	益田赤十字病院	5	—	18	—	—
2	島根県支部常備救護班員・支援員登録に係る研修会	6月2日	松江赤十字病院	5	31	—	2	—
3	日赤災害医療コーディネート研修会	7月8、9日 9月23、24日	日本赤十字社本社	—	1	2	—	—
4	こころのケア指導者養成研修会	10月11、12日	日本赤十字社本社	1	—	—	—	—
5	全国赤十字救護班研修会	1月27、28日	日本赤十字社広島県支部	R6 能登半島地震対応の為中止				
6	災害対策本部要員研修会	2月15、16日	日本赤十字社鳥取県支部	R6 能登半島地震対応の為中止				

(4) 災害関係諸会議

No.	訓 練 名	期 日	会 場	参加人数 (人)				
				島 根 県 支 部	松 江 赤 十 字 病 院	益 田 赤 十 字 病 院	島 液 根 セ ン 赤 十 字 病 院	防 災 ボ ラ ン チ ア リ ー ダ ー
1	島根県DMAT連絡協議会	3月5日	島根県民会館 及び WEB 会議	1	1	1	—	—
2	島根県災害医療関係機関連絡会議	3月5日	島根県民会館 及び WEB 会議	1	—	—	—	—
3	島根県防災会議	3月14日	ホテル一畑	1	—	—	—	—

(5) 災害情報収集、分析、共有について

①島根県総合防災情報システムの運用

②広域災害救急医療情報システム（EMIS）の運用

(6) 国内及び支部管内の災害救護・救援活動の状況

ア. 国内義援金の取扱い（集計期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日）

No.	受付項目	件 数	金 額 (円)
1	令和5年5月能登地方地震災害義援金	15	167,462
2	令和5年台風第2号等大雨災害義援金	7	63,181
3	令和5年6月30日からの大雨災害義援金	10	331,009
4	令和5年7月7日からの大雨災害義援金	18	442,898
5	令和5年7月島根県大雨災害義援金	33	1,194,350
6	令和5年台風第6号大雨災害義援金	7	215,606
7	令和5年台風第13号大雨災害義援金	8	374,240
8	令和6年能登半島地震災害義援金	1,599	197,155,436
合 計		1,697	199,944,182

イ. 令和6年能登半島地震 日本赤十字社島根県支部 活動状況

活動チーム	期 間	所 属	人 数	活 動 場 所
日赤DMA T第1班	1/7～12	松江赤十字病院	7名	珠洲市
日赤DMA T第2班	1/10～14	益田赤十字病院	5名	珠洲市
医療救護班第1班	1/12～17	松江赤十字病院、島根県支部	9名	七尾市
災害医療コーディネートチーム第1班	1/22～27	益田赤十字病院	3名	穴水町
こころのケア班第1班	2/2～8	益田赤十字病院	1名	七尾市、志賀町
医療救護班第2班	2/10～14	益田赤十字病院、島根県支部、災害ボランティア	10名	七尾市、志賀町
災害医療コーディネートチーム第2班	2/18～23	松江赤十字病院	4名	日赤石川県支部 災害対策本部
災害医療コーディネートチーム第3班	3/1～3/6	松江、益田赤十字病院、血液C	4名	七尾市
こころのケア班第2班	3/23～3/29	益田赤十字病院	1名	輪島市



(7) 小災害への対応

県内の火災・風水害・雪害等による災害被災世帯に対し見舞金・見舞品（救援物資）を、また、住居以外の工場・店舗等の被災には見舞金を贈呈している。その他、火災・風水害等による死亡者、赤十字会員の不慮の事故による死亡者に対しては弔慰金を贈呈した。

ア. 住家災害

市町村名	対象世帯	対象人数	見舞品目			見舞金（円）
			毛布（枚）	緊急セット（点）	タオルケット（枚）	
松江市	7	9	5	5	0	35,000
浜田市	8	16	16	7	5	40,000
出雲市	4	7	4	2	0	20,000
益田市	7	11	8	7	4	35,000
大田市	1	2	2	1	0	5,000
安来市	3	6	6	3	5	15,000
江津市	4	5	5	4	2	15,000
雲南市	3	7	7	3	0	15,000
奥出雲町	1	2	2	1	0	5,000
飯南町	2	4	4	2	0	10,000
川本町	0	0	0	0	0	0
美郷町	0	0	0	0	0	0
邑南町	1	5	5	2	0	5,000
津和野町	1	1	0	1	0	5,000
吉賀町	0	0	0	0	0	0
海士町	0	0	0	0	0	0
西ノ島町	0	0	0	0	0	0
知夫村	0	0	0	0	0	0
隠岐の島町	2	3	0	2	3	10,000
合計	44	78	64	40	19	215,000

イ. 工場・店舗災害見舞金

件数（件）	金額（円）
2	20,000

ウ. 死亡弔慰金

項目	件数（件）	金額（円）
災害による死亡弔慰金	5	50,000

(8) 防災ボランティアの活動

平成5年度から実施している地区リーダー養成講習会を受講し、赤十字防災ボランティアとして登録した方々が、支部事業への協力の他、地域の実情に沿ったボランティア活動を推進している。

令和6年能登半島地震においても防災ボランティア1名が2月10日～14日にかけ島根県支部医療救護班の支援員として、災害救護活動に従事した。



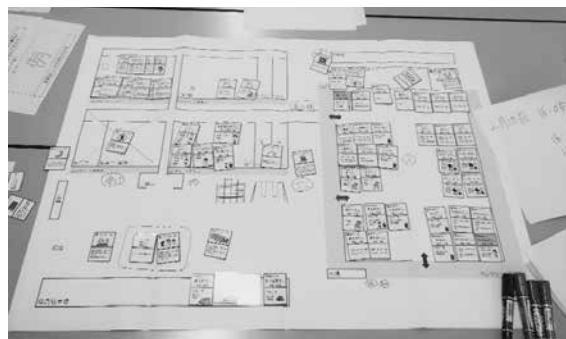
(9) 赤十字防災セミナーの開催

(人)

開催日	開催地域	実施団体	災害への備え	災害図上訓練	グダラ害 ラエ イス ノ	～H ～U ～G ～	ログラム 部 独 自 （※）	受講者（人）
5月31日	出雲市	島根県高文連	○	-	-	-	-	150
6月4日	出雲市	遙堪コミュニティセンター	○	-	-	-	-	50
6月6日	松江市	島根県立松江農林高等学校	○	-	-	-	-	4
6月19日	美郷町	君谷公民館	○	-	-	-	-	11
7月5日	松江市	松江市立皆美ヶ丘女子高等学校	○	-	-	-	-	31
7月8日	吉賀町	吉賀町連合婦人会	○	-	-	-	-	40
7月12日	江津市	江津市赤十字奉仕団	○	-	-	-	○	50
7月18日	松江市	あすなろ会 (古志原矢の原自治会なごやかよりあい)	○	-	-	-	-	14
7月31日	出雲市	J Aしまね出雲地区本部 ふれあい福祉課	○	-	-	-	○	17
9月3日	安来市	安来市古川町自治会	○	-	-	-	-	22
9月25日	安来市	広瀬地区民生児童委員協議会	○	-	-	-	-	23
11月4日	出雲市	莊原地区災害対策委員会	○	-	-	-	-	70
11月22日	出雲市	J Aしまね出雲地区本部 ふれあい福祉課	○	-	-	-	-	13
11月25日	出雲市	莊原地区青少年育成協議会	-	-	-	-	○	150
2月10日	松江市	JRC 松江市地区	-	-	-	○	○	20
3月3日	安来市	自主防災ひろせ	○	-	-	-	○	70
3月9日	海士町	海士町教育委員会	-	-	-	○	○	40
3月15日	益田市	益田市社会福祉協議会	-	-	-	○	○	30
3月15日	松江市	吉志原公民館	○	-	-	-	○	20
3月17日	大田市	宅野地区社会福祉協議会	○	-	-	-	○	25
受講者計								850 (243)

※参考:受講者計()は令和4年度実績

※防災啓発プログラム…避難所について、炊き出し、災害時高齢者生活支援など支部独自メニュー



(10) 日本赤十字社防災教育事業（赤十字防災セミナー）における支部指導者養成研修会の開催

※令和5年度は、令和6年能登半島地震災害対応のため開催中止

(11) 主な救護資機材の整備状況

項目	資機材名	数量
通信機器	無線機（150 MHz 帯・400 MHz 帯の基地局・移動局）	53
	衛星携帯電話（イリジウム）	2
	衛星車載電話（ワイドスター）	1
	簡易無線機	10
救護資機材	医療セット	5
	携帯型医療セット	2
	ドラッシュテント ※大型テント	1
	エアーテント（大） ※患者等収容用テント	2
	エアーテント（小） ※診察用テント	1
	災害用移動炊飯器	78
	パイプテント	9
	ワンタッチテント	2
	発電機	6
	蓄電池	2
	折畳寝台	37
	簡易ベッド	10
	担架	26
	担架架台	22
	バルーン投光器	3
	投光器	4
	ドンネル式ライト	2
	GMサーベイメータ	4
	AED（自動体外式除細動器）	6
	除染セット ※エアテント、防護服等	1
車両	災害救援車	12
	内訳：日赤島根県支部 7台	
	松江赤十字病院 2台	
	益田赤十字病院 3台	
救援物資	毛布	1980
	タオルケット	1543
	緊急セット	945
	安眠セット	520
その他	国内型緊急対応ユニット（dERU）	3

※国内型緊急対応ユニット（dERU）については、中四国各県支部共有の救護資機材であり、現在は、香川県支部（17年度整備）、広島県支部（19年度整備）、高知県支部（21年度整備）に配備している。

(12) スポーツ集会等への救護員の派遣

スポーツ、集会等広域的に実施される多数の参加者が集まる公益的な行事の際に、救護員を派遣し不慮の傷病者の救護にあたった。

件数	日数	対応施設	派遣期日	行 事 名	対象者数 (人)	医 師	看 護 師	そ の 他	被 救 護 者 数 (人)
1	1	松江	6月2日	第61回島根県高等学校総合体育大会空手道競技大会	116	1			5
	1	松江	6月3日	第61回島根県高等学校総合体育大会空手道競技大会		1			
2	1	松江	6月24日	第14回わかとり杯大会	600		1		3
3	1	松江	6月28日	令和5年度島根県警察逮捕術大会	200	1			1
	1	松江	6月29日	令和5年度島根県警察柔道・剣道大会	400	1			2
4	1	松江	7月1日	少年武道大会（剣道）	292		1		2
	1	松江	7月2日	少年武道大会（剣道）	320		1		0
	1	松江	7月9日	少年武道大会（柔道）	232		1		3
5	1	松江	7月1日	第43回全日本バレーボール小学生大会 島根県大会	900		1		1
	1	松江	7月2日	第43回全日本バレーボール小学生大会 島根県大会	600		1		1
6	1	松江/支部	8月10日	第65回全国教職員剣道大会	500	1	1		1
7	1	松江	8月19日	JAカップ第40回島根県学童軟式野球選手権大会	550		1		1
	1	松江	8月20日	JAカップ題40回島根県学童軟式野球選手権大会			1		0
8	1	松江	8月27日	マリンスポーツフェスタ 2023	154		1		0
9	1	松江	9月3日	第53回島根県武道振興大会（剣道・柔道・相撲）	1,288		1		8
	1	松江	9月3日	第53回島根県武道振興大会（弓道）			1		0
	1	松江	9月3日	第53回島根県武道振興大会（なぎなた・銃剣道）			1		0
10	1	松江	9月3日	令和5年度ウォータースポーツ等利活用実証実験事業	250		1		0
11	1	支部	9月23日	山陰中央新報「新聞祭り」	4,000		1		2
12	1	松江	9月30日	輝け11しまね町村フェスティバル	30,000		1		3
	1	松江	10月1日	輝け11しまね町村フェスティバル			1		
13	1	松江	11月3日	令和5年度島根県高校空手道新人戦	80	1			2
14	1	松江	11月18日	第21回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会県予選	500		1		0
	1	松江	11月19日	第21回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会県予選	250		1		0
15	1	松江	12月10日	第46回全国スポーツ少年団剣道交流大会島根県予選大会	50		1		0
計			23		41,232	6	20	0	35

松江：松江赤十字病院 益田：益田赤十字病院 センター：島根県赤十字血液センター

支部：日本赤十字社島根県支部職員又は登録指導員（水安／水上安全法指導員、救急法／救急法指導員）

2. 救護看護師の養成

医療の高度・専門分化や保健、医療、福祉のニーズが増大する中、医療施設・血液センター・福祉施設などで幅広い業務に対応できる資質の高い看護師の養成は重要な事業であるとともに、救護機関として、災害救護活動の中心をなす看護師の養成は、救護体制整備の基礎となる。



(1) 医療施設における救護看護師の養成

日本赤十字社の行う救護活動において、救護活動の中心となる看護師は、赤十字医療施設に看護師として3年以上勤務し、一定の救護教育と訓練を受けたものである。

赤十字の理念や基本原則に則って、災害時において救護看護師として活動できる広い能力を身につけるため、松江、益田両赤十字病院と連携し、職員として就業している看護師の3年間にわたる研修に対して協力している。

ア. 救護員としての赤十字看護師研修

期 日	実施病院	対 象	内 容	人數(人)
4月5日	松江赤十字病院	令和5年度採用看護師他未修者	赤十字概論 I・II・III	90
5月17日	益田赤十字病院	令和4年度採用看護師他未修者	災害看護論 I・II・III・IV	35
9月9日	松江赤十字病院	令和4年度採用看護師他未修者		10
9月22日	益田赤十字病院	令和4年度採用看護師他未修者	救急法基礎講習 救急員養成講習	11
9月2日・3日・9日	益田赤十字病院	令和4年度採用看護師他未修者		25
11月25日・26日・12月2日	松江赤十字病院	令和4年度採用看護師他未修者		

イ. 災害時のこころのケア研修会

実施期日	実施病院	対 象	人數 (人)
7月8日	松江赤十字病院	松江赤十字病院職員	12
1月18日	益田赤十字病院	益田赤十字病院職員	8

(2) 救護看護師養成奨学金制度

松江赤十字看護専門学校の閉校に伴い、必要となる救護看護師養成のため、赤十字教育施設への進学者に向けた奨学金制度を平成16年に立ち上げ、平成18年度から貸与を実施しており、これまで16人が制度を利用した。

※令和5年度末の奨学金貸与状況：貸与を受け在学している奨学生0人

3. 救急法・健康生活支援講習等の講習普及活動

(1) 救急法

災害時はもとより、日常突発的な事故による傷病者に対しての適切な救命手当・応急手当、事故者の搬送法など人命を救助するための知識と技術を普及した。なお、平成19年度より救急法ではAED（自動体外式除細動器）を用いた講習会を行っている。救急法基礎講習および救急法救急員養成講習は、令和4年4月1日より、「JRC（日本蘇生協議会）ガイドライン2020」に基づいた内容に一部変更された。



講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
救急法基礎講習 (4時間)	12 (13)	200 (168)	認定者 199 (168) ※検定者数 200 (168)
救急員養成講習 (12時間)	8 (7)	156 (121)	認定者 155 (116) ※検定者数 154 (116)
短期講習 (適 宜)	194 (195)	6,167 (6,123)	
指導員養成講習 (30時間)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	214 (215)	6,523 (6,412)	

※()は令和4年度実績

※※指導員養成講習は令和6年能登半島地震災害対応のため開催延期



(2) 水上安全法

水の事故を防ぐための、水泳事故の防止、泳ぎの基本、溺者の救助法、水難時の救助法、救命手当・応急手当等についての知識や技術を普及した。

講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
救助員養成講習〔プール〕 (14時間)	1 (0)	9 (0)	修了者数 8 (0) ※検定者数 9 (0)
救助員養成講習〔海〕 (12時間)	1 (0)	5 (0)	修了者数 5 (0) ※検定者数 5 (0)
短期講習 (適 宜)	10 (41)	296 (1,189)	
指導員養成講習 (30時間)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合 計	12 (41)	310 (1,189)	

※()は令和4年度実績、令和5年度は短期講習の救急法との同時実施分の集計方法を変更

(3) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を迎えるため、自身の健康管理・健康増進、介護予防高齢者の介護・自立支援のための知識と技術を普及した。

また、『避難生活支援講習』については、被災した高齢者の避難所生活に焦点をあて、短期講習としての開催の他に、地域における防災セミナー、学校における防災スクールでも実技などを取り入れ実施した。

また、『地域で支える認知症』の短期講習も実施した。



講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
支援員養成講習 (12時間)	2 (2)	10 (16)	修了者数: 8 (16) 認定者数: 8 (15)
短期講習 (避難生活支援講習) (2時間)	8 (2)	189 (99)	
短期講習 (地域で支える認知症) (1.5時間)	1 (1)	15 (15)	
短期講習 (適 宜)	9 (2)	177 (24)	
指導員養成講習 (30時間)	1 (1)	5 (9)	※※ 0 (0)
合 計	21 (8)	396 (163)	

※ () は令和4年度実績

※※指導員養成講習は令和6年能登半島地震災害対応のため開催延期

(4) 幼児安全法

たいせつな子どものいのちを守るため、乳幼児期に起こりやすい事故の予防と応急手当、かかりやすい病気と症状に対する看病のしかた、「乳幼児の一次救命処置」として、乳幼児に特化した心肺蘇生、A E Dの使い方についての知識と技術を普及した。また、災害時に備えた『避難生活支援講習』の短期講習を実施した。



講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
支援員養成講習 (10時間)	2 (2)	21 (15)	修了者数: 21 (15) 認定者数: 21 (15)
短期講習 (適 宜)	95 (76)	1,449 (1,181)	
指導員養成講習 (30時間)	1 (1)	6 (5)	6 (5)
合 計	98 (79)	1,476 (1,201)	

※ () は令和4年度実績

参考：令和5年度 総講習実績

※講習実施状況詳細は別表Ⅱを参照

区分	実施回数(回)	受講者数(人)	区分	実施回数(回)	受講者数(人)
救急法	214 (215)	6,523 (6,412)	健 康 生 活 支 援 講 習	21 (8)	396 (163)
水上安全法	12 (41)	310 (1,189)	幼児安全法	98 (79)	1,476 (1,201)
合 計			345回 (345)回		8,705人 (8,965)人

※()は令和4年度実績

4. 青少年赤十字

青少年赤十字は、赤十字の精神に基づいて世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、青少年自身が日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切にし、地域社会、国家・世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としている。



青少年赤十字の活動は、世界の青少年赤十字に共通する3つの実践目標 ①「健康・安全」(生命と健康を大切にする) ②「奉仕」(人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する) ③「国際理解・親善」(広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う)

を掲げるとともに、自主的で自律した生活態度を養うために「気づき、考え、実行する」という態度目標を掲げている。

文部科学省が定めている学習指導要領においては、「生きる力」を教育の柱に掲げ、それを「自ら学び、考え、主体的に判断する能力」と位置づけている。青少年赤十字の実践目標や態度目標、そして様々な指導方法は「生きる力」に結びつくものであり、また青少年赤十字の活動は幼児・児童・生徒の「心の教育」、「命を大切にする教育」に寄与するものとして多くの加盟校に活用されている。

(1) 加盟校とメンバー数 (令和6年3月31日現在)

校種	加盟校数	メンバー(男)(人)	メンバー(女)(人)	メンバー(計)(人)	指導者(人)
幼稚園	18	221	225	446	126
保育所(園)	38	1,289	1,246	2,535	699
小学校	102	7,004	6,621	13,625	1,278
中学校	57	4,601	4,423	9,024	739
高等学校	32	5,394	5,432	10,826	809
特別支援学校	10	374	224	598	307
義務教育学校	1	29	31	60	7
合計	258 (262)	18,912 (18,411)	18,202 (17,932)	37,114 (36,343)	3,965 (4,213)

※()は令和5年3月31日時点

(2) 活動状況

ア. 会議

島根県青少年赤十字指導者協議会は加盟校の校長、指導者、教育行政関係者により昭和25年6月に設立(別表IV参照)され、県内外で会議を行い、青少年赤十字の普及や育成に努めている。

	事業名	開催時期	開催場所	備考(参加者等)
1	島根県青少年赤十字指導者協議会役員会・総会	6月7日	ホテル白鳥(松江市)	役員会:役員15名、事務局4名 総会:来賓1名、役員18名、指導者10名、事務局4名
2	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	6月30日	日赤本社(東京都)	指導者協議会副会長1名
3	第5ブロック(中四国)青少年赤十字指導者協議会長並びに事務担当者会議	11月9日～11月10日	日赤香川県支部(香川県)	指導者協議会副会長及び支部担当者 ※Webにて参加
4	島根県青少年赤十字指導者協議会・青少年赤十字賛助奉仕団三役会	3月25日	日赤島根県支部(松江市)	指導者協議会正副会長5名、指導主事2名、賛助奉仕団正副委員長4名、事務局3名

イ. メンバー対象の研修会・その他事業

青少年の育成を図るため、島根県青少年赤十字指導者協議会、島根県高等学校文化連盟青少年赤十字部門において研修会等の開催やメンバーの派遣を行った。

事業名		開催時期	開催場所	備考（参加者等）
1	島根県高等学校青少年赤十字メンバー 春季協議会・指導者会	5月31日	出雲市民会館 (出雲市)	高校メンバー 126名、指導者 17名
2	島根県青少年赤十字メンバーリーダーシップ・ トレーニング・センター（小・中・高合同）	8月 6日～ 8月 8日	サンレイク (出雲市)	メンバー 小:16名 中:8名 高:11名 計35名 指導者 小:5名 中:6名 高:7名 計19名 賛助奉仕団: 7名 学生奉仕団: 2名 事務局: 5名
3	島根県高等学校青少年赤十字メンバー 秋季協議会・指導者会	11月 1日	出雲市民会館 (出雲市)	高校メンバー75名、指導者14名
4	RYC（海外青少年赤十字メンバー） 島根県支部招聘事業	11月18日 ～23日	日赤島根県支部 他	マレーシア赤新月社青少年赤十字メンバー3名来県 JRC 加盟校訪問：松江工業高校 ホームステイ協力：松江南高校
5	国際交流集会 JRC/RCY International Meeting, Tokyo2023	11月23日 ～26日	国立オリンピック記念センター (東京都)	高校メンバー 2名派遣 (松江工業高校、平田高校)
6	島根県青少年赤十字メンバー・リーダーシップ・ トレーニング・センター（隠岐会場）	12月 2日	西郷中学校 (隠岐の島町)	隠岐地区メンバー 中：3校 計39名 指導者：9名 事務局 4名
7	島根県青少年赤十字メンバー・リーダーシップ・ トレーニング・センター（益田会場）	2月 3日	益田市立総合福祉センター (益田市)	石見地区小・中学生メンバー及び指導者 ※能登半島地震災害対応のため中止
8	高文連青少年赤十字部門 青少年赤十字松江ブロック研修会 (避難所運営ゲーム(HUG)を使った研修)	2月10日	松江市総合文化センター プラバホール (松江市)	高校メンバー25名、指導者 2名
9	青少年赤十字スタディー・センター	3月22日 ～26日	山中湖村 東照館 (山梨県)	高校メンバー 1名派遣 (松江工業高校)



ウ. 指導者対象の研修会・その他事業

青少年の育成や青少年赤十字活動へ理解・協力を呼びかけるための、研修会等の開催や、赤十字について理解を深めるための事業への参加を行った。

事業名		開催時期	開催場所	備考（参加者等）
1	全国赤十字大会	5月18日	明治神宮会館 (東京都)	指導者協議会幹事1名
2	指導主事対象青少年赤十字研究会	1月12日	日赤本社（東京都）	指導主事1名
3	島根県青少年赤十字指導者講習会	2月 8日	日赤島根県支部 (松江市)	指導者：44名、県教育庁：1名、奉仕団：7名、指導者協議会会長、事務局：3名 計56名

エ. 青少年赤十字活動等へのサポート状況

学校での青少年赤十字活動や、防災について学ぶ『防災スクール』などで講師の派遣を行い、サポートを図った。

No	期日	種別	対象	内 容
1	4月18日	防災スクール	一の谷保育園	対象：児童49名 内容：「ぼうさいまちがいさがしきんはっけん！」（地震編） 派遣者：支部職員2名
2	4月20日	加盟登録式	安来市立伯太中学校	対象：生徒119名、教員13名 内容：JRCについての講話、ちかい唱和、ワッペン贈呈 派遣者：賛助奉仕団員1名、支部職員2名
3	4月24日	加盟登録式	安来市立第三中学校	対象：生徒154名、教員33名 内容：JRCについての講話、ちかい唱和、ワッペン贈呈 派遣者：賛助奉仕団員1名、支部職員1名
4	7月 6日	加盟登録式	安来市立第一中学校	対象：生徒446名、教員54名 内容：JRCについての講話、ちかい唱和、ワッペン贈呈 派遣者：賛助奉仕団員1名、支部職員1名
5	8月29日	防災スクール	大田市立大田西中学校	対象：中学2年生42名、教員5名、保護者3名 内容：災害・防災についての講義、炊き出し実習 派遣者：支部職員2名
6	10月14日	防災スクール	大田市立第三中学校	対象：1~3年生11名、教員14名、保護者10名、地域の方5名 内容：災害・防災についての講義、炊き出し実習、避難所で役立つ技術 派遣者：健康生活支援講習指導員3名、支部職員2名

※避難所で役立つ技術…「災害時高齢者生活支援講習」の中の、ホットタオル、ふろしきを使ったリュックサックづくりなど

オ. 青少年赤十字活動への助成

平成22年度より、青少年赤十字加盟校の活動の充実振興に資するとともに、未加盟校への啓発を図るため、青少年赤十字活動に対する助成を行っている。1校あたり15,000円を上限に、活動内容に応じて助成しており、今年度の助成校（71校）は下欄のとおりである。

	園名・学校名	活動テーマ
1	大田市立静間小学校	環境を大切にしよう
2	津和野町立青原小学校	地域との交流を深めよう
3	安来市立南小学校	ボランティア活動をしよう！
4	雲南市立佐世小学校	命や性の学習をしよう
5	大田市立川合小学校	地域のお年寄りとの交流
6	大田市立仁摩小学校	海の学習
7	益田市立都茂小学校	ボランティア活動をしよう！
8	県立平田高等学校	SDGs 「14. 海の豊かさを守ろう」に関する調査や活動を行う
9	安来市立広瀬小学校	富田川から環境を考えよう
10	出雲市立遙堪小学校	地域を花いっぱいにしよう
11	安来市立母里小学校	みんなが幸せになるために
12	県立浜田養護学校	性と生～これから自分はどうする～
13	松江市立佐太幼稚園	①講武幼稚園・御津保育所の友達と仲良くなろう ②野菜とお花を育てよう
14	県立松江清心養護学校	①地域の方を元気にする活動に参加しよう ②異学年交流を通して、みんなが仲良くなる活動をしよう
15	出雲市立上津小学校	ふるさと上津を大切にしよう
16	大田市立大田小学校	卒業プロジェクト ピカピカ大作戦
17	県立松江工業高等学校	(1) 校内外の環境整備 (2) 学園祭で防災を呼びかける
18	大田市立鳥井小学校	ふるさと鳥井の海岸をきれいにしよう
19	社会福祉法人 まつお保育園	花と野菜を育てよう
20	益田市立豊川小学校	保育園の友だちと仲良くなろう！
21	松江市立島根中学校	花の訪問
22	益田市立東陽中学校	地域をきれいにしよう！
23	出雲市立伊野小学校	花と野菜を育てよう！
24	雲南市立海潮中学校	障がいについての理解～接し方を考える
25	県立松江南高等学校	ウクライナ募金をする
26	奥出雲町立高尾小学校	災害支援を学ぼう 高尾小チャリティー寄席
27	飯南町立赤来中学校	地域を元気づけよう！
28	安来市立認定こども園母里	花いっぱい 野菜いっぱい 笑顔いっぱい
29	県立隱岐島前高等学校	絵本（英語と日本語のバイリンガル）の読み聞かせをしよう！
30	県立三刀屋高等学校	Original Style in 三刀屋 ～広げる健康・繋げる笑顔～
31	松江市立古江幼稚園	秋鹿幼稚園の友達と仲良くなろう！
32	安来市立第一中学校	清掃ボランティアをしよう
33	大田市立第二中学校	トイレをきれいにしよう！
34	松江市立生馬小学校	①清心養護学校との交流 ②性に関する学習
35	出雲市立大社幼稚園	大好きいっぱい 笑顔いっぱい 楽しさいっぱい 大社町～ふるさと大社のひと・もの・こととのふれ合いを通して～

36	吉賀町立七日市小学校	地域の方との交流
37	松江市意東小学校	異学年交流をしながら、児童が本に親しめる活動をしよう
38	益田市立中西小学校	人を大切にする心 地域のみんなとつながろう
39	出雲市立湖陵中学校	地域に貢献しよう
40	邑南町立石見中学校	救急法講習会および保育園での読み聞かせ活動
41	隱岐の島町立五箇中学校	地域の施設にボランティアに行こう！
42	吉賀町立柿木中学校	地域奉仕活動を考える（学童保育訪問）
43	松江市立大野小学校	異学年交流を通して、全児童が本を好きになる楽しい活動を計画しよう。
44	大田市立久手小学校	命の学習をしよう
45	松江市立朝酌幼稚園	朝酌元気もりもり畑とわくわく広場をつくろう
46	海士町立海士小学校	お年寄りや保育園児に踊りを披露しよう
47	雲南市立認定こども園 加茂こども園	食育活動
48	松江市立津田小学校	津田っ子のきずな∞無限大
49	大田市立温泉津小学校	学校の環境を豊かできれいにしよう！
50	雲南市立鍋山小学校	友達を大切に
51	大田市立長久小学校	障がいについて理解を深めよう
52	益田市立戸田小学校	①心肺蘇生法講習会 ②福祉について学ぼう
53	吉賀町立柿木小学校	今年もお花いっぱいプロジェクト
54	安来市立能義小学校	やさしい気持ちで 友だちや地域の方と つながろう
55	奥出雲町立布勢小学校	やさしい気持ちでふれ合おう
56	浜田市立旭中学校	ボランティア活動をしよう
57	松江市立母衣小学校	①のびのびファームで花・野菜を育てよう ②学校をピカピカにしよう
58	西ノ島町立西ノ島中学校	地域の海水浴場をきれいにしよう！
59	西ノ島町立西ノ島小学校	ボランティア活動
60	津和野町立木部小学校	お年寄りとのふれあい活動をしよう
61	吉賀町立六日市中学校	花に囲まれた落ち着きのある環境づくりⅢ
62	浜田市立金城中学校	校舎を清潔にしよう！
63	松江市立意東幼稚園	栽培活動
64	安来市立井尻小学校	地域の方との交流を深めよう
65	大田市立志学小学校	三瓶大好き宿泊体験学習及び地域へのボランティア活動をしよう
66	雲南市立認定こども園 海潮こども園	花や野菜を元気に育てよう！！
67	社会福祉法人 壽光会 たいしゃ保育園	「食を営む力」を育てよう
68	県立浜田ろう学校	地域の達人から華道を学ぼう～花いっぱいの学校にしよう～
69	社会福祉法人出雲南福祉会 一の谷保育園	食育について考え、食の大切さについて考えよう。
70	松江市立母衣幼稚園	花苗植え交流
71	県立飯南高等学校	自分の身の周りでできることに 気づき・考え・行動する

力. 青少年赤十字国際交流事業

国内外の青少年赤十字メンバーが交流を深めることで、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」を促進するとともに、自国における今後の活動につなげることを目的に、隔年で実施している。今年度はマレーシア赤新月社からメンバー3名を招聘し、下記の内容を実施した。

期日：令和5年11月18日～11月22日

内容：青少年赤十字メンバー宅へホームステイ（2泊3日）

島根県青少年赤十字賛助奉仕団と平和研修（平和教育について学習）

松江赤十字病院視察

西持田リサイクルプラザ見学（日本のごみ処理について学習）

青少年赤十字加盟校訪問及び交流（島根県立松江工業高等学校）

みずうみ赤十字奉仕団との文化研修

島根大学学生赤十字奉仕団との活動情報交換



別表IV

令和5年度島根県青少年赤十字（JRC）加盟校登録状況

※欄の都合上、義務教育学校は中学校に記載している 一・・・統廃合校等

· · R 0 4 加盟校

★ · · · 新規加盟校

市町村	幼・保	人数	小	人数	中	人数	高・特支	人数
松江市	★母衣	12	母衣	467	第一	9	松江北	760
	城北		城北	526	第二		松江南	790
	中央		内中原	665	第三	248	松江東	7
	雜賀		中央	297	第四		松江工業	14
	津田		雜賀	205	湖南		松江商業	
	古志原	40	★津田	755	湖東		松江農林	460
	川津	33	古志原		本庄	38	皆美が丘	295
	朝酌	5	川津	234	湖北		松徳	180
	八雲		朝酌	119	鹿島		開星	
	忌部		法吉	12	島根	62	松南	270
	大庭		竹矢		美保関		松江西	
	玉湯		乃木	885	八雲		高専	
	持田	12	忌部		宍道		宍道(定/通)	1,628
	古江	8	大庭	491	宍道分校		松工(定)	
	秋鹿		生馬	112	東出雲	468		
	佐太	13	持田	303	松徳	75	盲学校	17
	★出雲郷(幼)	17	古江		開星		松江ろう	
	★出雲郷(保)	83	本庄	79			松江養護	197
	揖屋	15	大野	18	八束学園 義務		清心養護	55
	意東	4	秋鹿		島太附属 義務		緑が丘	
	城西幼保	145	恵曇		玉湯学園	60	乃木校舎	88
	じんじ幼保		佐太	81				
	幼保園のぎ		鹿島東	84				
	揖屋(保)	133	島根	124				
	意東(保)	60	美保関					
	育英(保)	21	八雲					
	育英北	28	宍道					
	御津(保)	31	来待	104				
	美闘園(保)	25	来待分校					
	附属		意東	214				
	こばと(保)		揖屋	48				
	わかたけ(保)	101	出雲郷	474				
	まつお(保)	30						
	みずうみ第2(保)	65						
	虹の子(保)							
	嵩見(保)							
	★やつか(保)	90						
	みずうみ(保)	63						
	袖師(保)	84						
	みどり(保)	53						
	わらべのその(保)	39						
	融合乳児園							
	融合こども園	36						
	しらゆり(保)	51						
	しらゆり第2(保)	30						
	しらゆり千島(保)	26						
	シオンこひつ(保)	27						
	愛恵(保)	41						
	湯町(保)	123						
	みのり黒田							
計		33	1,544	22	6,297	7	960	13 4,761
安来市	安来		十神		第一	446	安来	2
	島田		社日		第二	81	情報科学	273
	能義		島田	160	第三	154		
	荒島		宇賀荘	44	広瀬	145	安来分教室	14
	布部		南	56	伯太	119		
	広瀬		能義	60				
	比田		飯梨	28				
	母里	24	荒島					
	安田		赤江					
	井尻		広瀬	198				
	赤屋		比田	23				
	飯梨		山佐	10				
	大塚		★布部	14				
	安来(保)		安田					
	切川(保)		母里	14				
			井尻	17				
			赤屋					
計		1	24	11	624	5	945	3 289

市町村	幼・保	人数	小	人数	中	人数	高・特支	人数
奥出雲町	三成(保)	布勢	54	仁多			★横田	197
	三沢(保)	三成	95	横田				
	阿井(保)	高尾	4					
	布勢(保)	★亀嵩	28	43				
	亀嵩(保)	阿井	34					
	横田(保)	91	三沢					
	馬木(保)	13	鳥上					
	八川(保)	12	横田					
			八川	54				
			馬木	36				
計	5	178	6	286	0	0	1	197
飯南町		頓原		頓原		飯南		5
		志々		赤来	65			
		赤名						
		来島	42					
計	0	0	1	42	1	65	1	5
浜田市	*原井	原井		第一		浜田	536	
	*石見	雲雀丘		第二		浜田商業	216	
	*長浜	松原		第三		浜田水産		
	*美川	石見		第四		浜田(定)		
	浜田	美川		浜田東	142	浜田(通)		
	夕日ヶ丘	周布		金城	96			
		長浜		★旭	62	★浜田養護	111	
		国府		弥栄		浜田ろう	9	
		浜田幼へ		三階	110			
		雲城						
		今福						
		波佐						
		旭						
		弥栄						
		三隅						
		岡見						
計	0	0	0	0	4	410	4	872
大田市	大田	大田	138	第一	410	大田	382	
	長久	201	★第二	230	邇摩		246	
	五十猛	69	北三瓶					
	静間	59	志学		大田分教室			
	鳥井	40	第三	11	邇摩分教室			
	久手	178	大田西	113				
	朝波							
	北三瓶	13						
	志学	16						
	*池田							
	川合	71	*統合し、(新) 川合小へ					
	久屋							
	大森	24						
	高山							
江津市	温泉津	76						
	仁摩	144						
計	0	0	12	1,029	4	764	2	628
あさり	58	郷田		江津	213	江津	180	
さくら	32	渡津		江東		江津工業		
		江津東	15	青陵	163	石見智翠館		
		川波		桜江		刈外教 美真		
		津宮	327					
		高角				江津清和		
		桜江	91					
計	2	90	3	433	2	376	1	180
川本町			川本	131	川本	58	鳥根中央	219
計	0	0	1	131	1	58	1	219

市町村	幼・保	人数	小	人数	中	人数	高・特支	人数
邑南町			邑智	119	邑智			
			大和	59	大和	25		
	計	0	0	2	178	1	25	0
			口羽	22	羽須美	33	矢上	273
			阿須那	19	瑞穂	88		
			高原	40	石見	126	石見養護	18
			瑞穂	134				
			市木	11				
			矢上					
			日貫	10				
			石見東					
計	0	0	6	236	3	247	2	291
益田市			益田	401	益田	396	益田	
			吉田	649	吉田	200	益田翔陽	6
			★吉田南	166	益田東	209	明誠	
			安田	195	東陽	140	益田東	
			★鎌手	47	横田	105		
			★真砂	10	小野	34	益田養護	66
			豊川	38	中西			
			西益田	145	美都	21		
			桂平		匹見			
			戸田	51				
			中西	70				
			益田	305				
			東仙道					
			都茂	26				
			匹見					
計	0	0	12	2,103	7	1,105	2	72
津和野町			津和野		津和野	71	津和野	195
			木部	19	日原	58		
			日原					
			青原	36				
計	0	0	2	55	2	129	1	195
吉賀町			柿木	49	★柿木	35	吉賀	98
			七日市	34	吉賀			
			朝倉		六日市	42		
			六日市	91				
			蔵木					
計	0	0	3	174	2	77	1	98
海士町			福井		海士	48	隱岐島前	165
計	0	0	1	61	1	48	1	165
西ノ島町			西ノ島	107	西ノ島	46		
計	0	0	1	107	1	46		
知夫村			知夫		★知夫	12		
計	0	0	0	0	1	12	0	0
隠岐の島町			西郷		西郷	160	隠岐	200
			中条	68	西郷南	80	隠岐水産	
			有木	30	五箇	39		
			磯	39	都万		隠岐養護	23
			北	15				
			五箇					
			都万					
計	0	0	4	152	3	279	2	223
幼・保	56園	(新規: 6園)					【参考】R4 加盟校	55園
小学校	102校	(新規: 7校)						102校
中学校	58校	(新規: 6校)					※義務教育学校含む	60校
高 校	32校	(新規: 1校)						35校
特別支援	10校	(新規: 1校)						10校
合 計	258校	(新規: 21校・園)						262校

5. 赤十字奉仕団

(1) 奉仕団の概況

日本赤十字社赤十字奉仕団規則に基づいて、県内の市町村毎に地域赤十字奉仕団を結成している。

また、学生を含めた青年および特定の職能を有する人たちが特別赤十字奉仕団を結成し、それぞれの特性と能力を活かして奉仕活動を展開している。

活動分野は、広範囲にわたっており、赤十字思想の普及、青少年赤十字の普及・育成、献血の推進および採血業務の援助、高齢者福祉の推進等を中心に、社会情勢の変化学や国民生活の実態に即した活動を行っている。

奉仕団では研修会、協議会等を通じて、団員の意識や知識・技術の向上を図っている。

また、『日本赤十字社島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会』を開催し、各奉仕団の連携と協働を図り、横断的な繋がりを強化している。(同協議会に青少年赤十字指導者協議会会长も出席し、JRCとの連携も図っている。)

(2) 奉仕団の設置と活動状況

ア. 地域赤十字奉仕団（浅津知子委員長：団員2,156名 市町村毎17団）

昭和32年4月1日に県内の市町村毎に奉仕団を結成し、地域のニーズに即した奉仕活動を行っている。赤十字思想の普及・赤十字活動資金（会費）募集、非常災害に対する防災・救助活動、救急法の講習、地域子育て支援等の赤十字事業の推進を行っている。

①研修会・会議

1) 県内全体会

事 業 名		期 日	会 場	備 考 (参加者等)
1	令和5年度 赤十字奉仕団島根県支部委員会 地域赤十字奉仕団総会・研修会	5月24日	ニューアーバンホテル (松江市)	参加者：支部委員会委員長、副委員長1名、 団員42名 総会 ・令和4年度事業報告 ・各種事業参加者報告 ・令和5年度事業計画 研修会 奥出雲町立高尾小学校 「にこにこ寄席」
2	島根県支部赤十字奉仕団 委員長協議会	8月21日	日赤島根県支部 (松江市)	支部委員会委員長



2) 県内地域別研修・講習

事 業 名		期 日	会 場	備 考 (参加者等)
1	赤十字防災セミナー	7月 8日	六日市基幹センター (吉賀町)	吉賀町赤十字奉仕団員40名
2	赤十字防災セミナー	7月12日	江津市市民センター (江津市)	江津市赤十字奉仕団員50名



3) 全国・第5ブロック会議等団員派遣

事 業 名		期 日	会 場	備 考 (参加者等)
1	全国赤十字大会	5月18日	明治神宮会館 (東京都)	委員長
2	赤十字奉仕団中央委員会	6月 1日 ～ 2日	日赤本社 (東京都)	支部委員会委員長
5	赤十字ボランティア・リーダー研修会 (地域奉・特殊・青奉対象)	8月26日 ～28日	日赤本社 (東京都)	地域赤十字奉仕団副委員長 1名
3	中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会	11月14日 ～15日	日本赤十字社岡山県支部 (岡山県)	地域赤十字奉仕団 2名参加

②赤十字活動資金（会費）への協力

令和5年度実績 163件 213,000円

イ. 特別赤十字奉仕団

設立目的に応じ、奉仕団の特性と能力を生かした赤十字活動の推進にあたっている。島根県支部には、青年層で組織した青年赤十字奉仕団と特殊技能を有する特殊赤十字奉仕団が設立されている。

各々特技を生かし、献血思想の普及、災害救護、救急法等の技術知識の習得、施設奉仕、公共施設の清掃奉仕等様々な活動を行っている。また、それぞれの奉仕団において、研修会、協議会、その他の各種会合を開いて意識向上を図っている。

①青年赤十字奉仕団

平成17年に設立されたしんじ湖青年赤十字奉仕団（足立剛委員長：団員7名）並びに平成22年に設立された島根大学学生赤十字奉仕団（中村遼音委員長：団員18名）の2単位団が活動している。

全国及び第5ブロック（中四国）の研修会等で培った知識・技術を生かして、赤十字思想の普及、地域のニーズに即した活動を積極的に実践している。また全国や第5ブロックの協議会及び研修会等へ代表者を派遣し、赤十字に集う若いネットワークを通じて、活発に協議・情報交換を行い、交流を深めている。

1) 本社・ブロック主催の会議・研修会等

	事業名	期日	会場	備考（参加者等）
1	第5ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会代表者会議	6月25日	WEB開催	委員長
2	赤十字ボランティア・リーダー研修会（地域奉・特殊・青奉対象）	8月26日～28日	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）	団員1名

2) 他県主催の会議・研修会等

	事業名	期日	会場	備考（参加者等）
1	HIV/AIDS ピア・リーダー養成研修会	7月9日	WEB開催	団員3名

3) 支部主催事業への参加・活動協力

	事業名	期日	会場	備考（参加者等）
1	島根県青少年赤十字メンバーリーダーシップ・トレーニング・センター（小・中・高合同）	8月6日～8日	サンレイク（出雲市）	委員長、団員1名
2	SDGsエシカルマルシェ	9月23日	朱鷺会館（出雲市）	団員3名
3	第10回輝けしまね町村フェスティバル	9月30日～10月1日	TSK山陰中央テレビ新社屋特設会場（松江市）	委員長、団員5名
4	RCY（海外青少年赤十字メンバー）島根県支部招聘事業	11月22日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員3名
5	NHK歳末・海外たすけあいオープニングセレモニー	12月1日	NHK松江放送局（松江市）	委員長、団員1名
6	特別義援金	随時	日赤島根県支部（松江市）	各種災害義援金

4) 青年赤十字奉仕団主催の活動

事 業 名		期 日	会 場	備 考 (参加者等)
1	新入生歓迎会	4月24日	島根大学 (松江市)	
2	令和5年5月 能登地方地震災害義援金	5月30日 ~31日	島根大学・イオン菅田店 (松江市)	委員長、団員5名
3	第73回淞風祭(島根大学大学祭) 模擬店・募金活動	10月8日 ~9日	島根大学 (松江市)	委員長、団員14名
4	海外たすけあい募金活動	12月20日	島根大学・イオン菅田店 (松江市)	委員長、団員4名
5	松江赤十字乳児院ボランティア	月2~3回	松江赤十字乳児院 (松江市)	島根大学学生赤十字奉仕団 乳児院ボランティア 毎月2回 1~2名ずつ訪問 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止 の観点から活動見合わせ
6	定例会	月1回	島根大学 (松江市)	

②みずうみ赤十字奉仕団 (松本淑子委員長:団員37名)

松江市の有志により昭和31年3月10日に設立され、地域に根ざした地道な活動を展開している。高齢者施設への訪問活動や青少年赤十字加盟校との交流活動を通じ、入所者および青少年赤十字メンバーとの親睦を図っている。

1) 主要実施活動

事 業 名		期 日	会 場	備 考 (参加者等)
1	総会	6月3日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、団員17名 令和4年度事業報告及び決算報告 令和5年度事業計画及び予算
2	日赤島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会	8月21日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長
3	戦争犠牲者慰靈塔清掃、供養	9月25日	緑山公園 (松江市)	委員長、団員11名
4	古布ふきんづくり	7月12日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、団員5名
5	松江市立皆美が丘女子高等学校 ちょうちょキャンペーン	11月10日	松江市立皆美が丘 女子高等学校(松江市)	委員長、団員4名
6	RCY(海外青少年赤十字メンバー) 島根県支部招聘事業	11月22日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、団員9名
7	NHK歳末・海外たすけあい オープニングセレモニー	12月1日	NHK松江放送局 (松江市)	団員2名
8	施設訪問(古布ふきん持参)	2月8日	各福祉施設	委員長、団員9名
9	病院ボランティア	~	松江赤十字病院 (松江市)	月~金曜日 1人ずつ ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止 の観点から活動見合わせ
10	乳児院ボランティア	~	松江赤十字乳児院 (松江市)	第1土曜日・第3日曜日 洗濯物整理
11	赤十字会員加入・ 活動資金募集への協力	~		全団員に呼びかけ(総会時)
12	児童福祉施設支援金	~	日赤島根県支部 (松江市)	支部を通して県内13か所の児童福祉施設へ
13	特別義援金	隨時	日赤島根県支部 (松江市)	各種災害義援金
14	情報誌ザレッドクロスみずうみ	3月末発刊	日赤島根県支部	編集委員 委員長、団員3名

2) 赤十字活動資金(会費)への協力

令和5年度実績 43件 93,130円

③島根県無線赤十字奉仕団（金子由次委員長：団員18名）

アマチュア無線家で構成するこの奉仕団は、全団員が防災ボランティアリーダー・サブリーダーとなっており、防災ボランティア地区リーダー養成事業や各種防災訓練などの支部災害救護事業に参画している。また、全国の無線赤十字奉仕団との通信訓練を活発に行っている。

1) 主要実施活動

活動・事業名		期日	会場	参加者(人)
会議	島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会	8月21日	日本赤十字社島根県支部	1
事業名	島根県青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンター	8月 6日	島根県青少年の家 (サン・レイク)	4
無線通信訓練	全国のアマチュア無線赤十字奉仕団との通信訓練			16局

2) 全国アマチュア無線赤十字奉仕団との通信訓練

	無線通信訓練名	訓練日	通信相手(依頼支部 所属奉仕団)
1	山口県赤十字アマチュア無線奉仕団 全国無線通信訓練	4月 9日	JA4YGI 山口県赤十字アマチュア無線奉仕団
2	「熊本地震の日」における災害非常通信訓練	4月16日	JA6ZJY 熊本県赤十字アマチュア無線奉仕団
3	山梨県無線赤十字奉仕団による 非常無線通信訓練	4月22日	JR1YBL 山梨県赤十字アマチュア無線奉仕団
4	鹿児島県総合防災訓練非常通信訓練	5月28日	JA6YPB 鹿児島県アマチュア無線クラブ
5	「山口県総合防災訓練」に伴う 全国無線通信訓練	6月 4日	JA4YGI 山口県赤十字アマチュア無線奉仕団
6	北海道赤十字無線奉仕団協議会 通信訓練	7月16日	JA8ZFT 北海道赤十字アマチュア無線奉仕団
7	鳥取県赤十字アマチュア無線奉仕団 全国無線通信訓練	9月 2日	JA4YGA 鳥取県赤十字アマチュア無線奉仕団
8	栃木県・那須塩原市総合防災訓練 非常通信訓練	9月 3日	JH1TSQ 栃木県赤十字アマチュア無線奉仕団
9	兵庫県赤十字アマチュア無線奉仕団 全国無線通信訓練	10月28日	JH3YTR 兵庫県赤十字アマチュア無線奉仕団
10	和歌山県赤十字アマチュア無線奉仕団 全国無線通信訓練	11月 5日	JA3YQJ 和歌山県赤十字アマチュア無線奉仕団
11	宮城県石巻市総合防災訓練に伴う 石巻市無線赤十字奉仕団 全国無線通信訓練	11月 5日	JE7YVD 石巻市地区無線クラブ赤十字奉仕団
12	宮崎県総合防災訓練 非常通信訓練	11月 5日	JA6YRG 宮崎県アマチュア無線赤十字奉仕団
13	東京都特殊救護赤十字奉仕団主催 アマチュア無線全国無線通信訓練	11月26日	JH1ZNX 東京都特殊救護赤十字奉仕団
14	愛知県赤十字無線奉仕団 無線通信訓練	12月24日	JH2YWN 愛知県赤十字無線奉仕団
15	福岡県赤十字無線奉仕団 無線通信訓練	3月17日	JA6YPV 福岡県赤十字無線奉仕団
16	神奈川県赤十字無線奉仕団 無線通信訓練	3月23日	JA1YRZ 神奈川県無線救急赤十字奉仕団

④島根県青少年赤十字賛助奉仕団（広原啓視委員長：団員31名）

島根県青少年赤十字指導者協議会の会員であった者、青少年赤十字に深い理解と認識をもつ者がこれまで培った経験や知識を活かして青少年赤十字の普及・啓発支援を行うため、平成16年5月15日に設立。学校での活動や校長会などでの普及・啓発活動のほか、会議や研修等を通じて全国や第5ブロックの賛助奉仕団と連携を深め活動を展開している。

1) 主要実施活動

事業名	期日	会場	備考（参加者等）
1 役員会	4月 4日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員5名 総会および研修会について
2 加盟登録式	4月20日	安来市立伯太中学校（安来市）	支部指導講師1名派遣 青少年赤十字について
3 加盟登録式	4月24日	安来市立第三中学校（安来市）	支部指導講師1名派遣 青少年赤十字について
4 総会・研修会	5月20日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員16名 研修会 青少年赤十字防災教育プログラム
5 島根県青少年赤十字指導者協議会役員会・総会	6月 7日	ホテル白鳥（松江市）	委員長
6 加盟登録式	7月 6日	安来市立第一中学校（安来市）	団員1名派遣 青少年赤十字について
7 全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会役員会・総会	7月10日～12日	日赤本社（東京都）	委員長、団員（全国役員）
8 島根県青少年赤十字メンバーリーダーシップ・トレーニング・センター（小・中・高合同）	8月 6日～8日	サンレイク（出雲市）	委員長、団員6名
9 島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会	8月21日	日赤島根県支部（松江市）	委員長
10 第5ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会	10月26日～27日	道後温泉 にぎたつ会館・松山市内学校（愛媛県）	委員長、団員
11 RCY（海外青少年赤十字メンバーリーダーシップ・トレーニング・センター）島根県支部招聘事業	11月20日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、団員4名
12 児童福祉施設支援金	-	日赤島根県支部（松江市）	支部を通して県内13か所の児童福祉施設へ
13 特別義援金	隨時	日赤島根県支部（松江市）	各種災害義援金
14 島根県青少年赤十字指導者講習会	2月 8日	サンラポーむらくも（松江市）	委員長、団員6名
15 全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会第2回役員会	3月12日～13日	日赤本社（東京都）	団員1名
16 島根県青少年赤十字指導者協議会・青少年赤十字賛助奉仕団三役会	3月25日	日赤島根県支部（松江市）	委員長、副委員長2名
17 役員会	3月25日	日赤島根県支部（松江市）	「いとすぎしまね（第34号）」編集令和6年度総会・役員会について

⑤島根理容赤十字奉仕団（福代一成委員長：団員 242 名）

令和 5 年度活動記録：29施設と在宅家庭において、延べ356人の奉仕団員が、延べ311回 16,914 人に対して理容奉仕活動を実施した。

(3) 赤十字奉仕団支部指導講師

赤十字奉仕団支部指導講師は、日本赤十字社島根県支部が行う各奉仕団研修会や J R C メンバー・指導者協議会等において、講演や研修指導等の活動を行っている。新たに 1 名の講師が追加となり、当支部には11名の指導講師が在籍している。

6. 医療事業・保健衛生活動

(1) 松江赤十字病院

松江赤十字病院は、日本赤十字社の全国91病院の一つで、昭和11年4月県立松江病院の廃止移管を受け、日本赤十字社松江支部病院として創設し、昭和18年1月に松江赤十字病院と名称変更し今日に至っている。



80余年の長い歴史の中で、社会情勢の変化に応じた医療需要に対応し、高度・良質な医療の提供を行う県東部の中核病院として常に主要な役割を果たしてきた。

国の進めている病病・病診連携を実現すべく当院の役割分担を明瞭化し、松江医療圏域あるいは島根県全体の急性期医療を中心的に担い、高度な医療を提供する施設として期待されるところである。

そうした高度医療提供の期待に応えるべく、平成16年4月には、救命救急センターを開設、平成17年1月には地域がん診療拠点病院の指定を受け、さらに平成19年2月には県内3番目に「地域医療支援病院」の承認を得るとともに同年4月には「がん相談支援センター」を開設するなど引き続き地域における中核病院としての役割を果たすこととしている。

また、当院は赤十字病院としてDMA Tや救護班要員を備え、大規模災害発生時には被災地の医療支援も使命の一つである。平成23年の東日本大震災や平成28年熊本地震、令和6年能登半島地震にはDMA T、救護班などを現地に派遣し医療支援を行った。

病院建設については、建物・機器の老朽化や耐震などの災害対応、療養環境の改善等のため約172億円の予算で平成19年2月に全面改築に着手した。病棟・検査部門・給食部門等からなる高層館は平成21年12月に、外来部門・管理部門等からなる本館は平成24年4月に竣工となり、その後外構工事・公開空地の整備を行い、平成25年4月に事業を完了している。

また、平成24年度より本院機能の補完、慢性的な外来駐車場不足解消を目的とし、別館関係工事に着手し、平成25年2月に別館1、別館2、保育所を、平成25年10月には旧看護学校解体跡に駐車場（102台）を設置した。平成26年3月には一連工事の終了をもって新築工事竣工記念式典を挙行した。

平成29年11月には最新鋭のPET-CTの更新、3月にはハイブリッド手術室の新設など高度医療機器を導入し医療の質を高める取り組みを継続的に行つた。

平成30年12月より患者サービスの向上を目的に患者総合支援センターを開設した。

令和2年1月には「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け、がん診療の体制充実を図った。

令和3年12月には松江市立病院との連携と協力に係る基本協定を締結し、地域医療連携の体制強化に進めている。

ア. 病院の現況

①敷地・建物（病院部分）

敷地 9,250.10m²

本館 地上6階建 10,175.62m²

高層館 地上14階建地下1階 31,293.37m²

合計 41,468.99m²

②病床数

599床（一般病床552床、精神45床、感染2床）

③診療科目（27科）

内科、精神神経科、神経内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、膠原病・腎臓内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、皮膚科、泌尿器・副腎外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科

④職員数

1,134人（医師149人、看護師609人 他 ※令和6年3月31日現在）

⑤特殊施設

人工透析センター、ICU、CCU、NICU、GCUなど

⑥その他

地域医療支援病院、臨床研修指定病院、第二次医療圏災害拠点病院、エイズ拠点病院、脳死者からの臓器移植提供施設、地域がん診療拠点病院、地域周産期母子医療センター、救命救急センターなど

イ. 診療状況の概況

○患者数（令和5年度）

外来患者延数 178,894人（一日平均 739人）

入院患者延数 176,943人（一日平均 484人）

(2) 益田赤十字病院

昭和29年4月1日、当時益田市外11町村組合立美濃 共存病院を日本赤十字社が引き受け、益田赤十字病院と改称して発足した。

その後、地域医療に対応するため、昭和32年に増改築、昭和46年に新築移転を行い、現在では、県西部における中核病院として、第二次救急指定病院、エイズ拠点病院、災害拠点病院、第二種感染症医療機関、地域がん診療連携推進病院、地域周産指定され、その役割を果たすべく施設、設備の整備・診療体制の強化・地域住民の健康維持並びに福祉の充実・向上に努めている。

また、赤十字病院としてDMATや救護班要員を備え、災害発生時には被災地の医療支援を行っている。令和6年能登半島地震にもDMATや救護班などを被災地に派遣し支援活動を行った。

平成28年1月に新病院が開院、平成30年1月、地域包括ケアシステムを推進するため入退院センターを設置、また、平成30年3月には地域により信頼される病院を目指し、日本医療機能評価機構 病院機能評価 一般病院2(3rdG:Ver.2.0)の認定を受けた。

近年では、医療資源の少ない益田圏域において、限られた医療資源を有効活用し、医療機関の相互協力、研修医受け入れ体制の充実、医療機能の維持・充実を図るため、津和野共存病院・六日市病院・益田地域医療センター医師会病院・松ヶ丘病院と医療機能連携協定を締結している。また、令和元年5月には自治体である津和野町、令和5年3月には吉賀町と、地域包括ケアシステムの推進、地域医療を担う医療人材の育成を目的とした医療機能連携支援協定を締結した。

ア. 病院の現況

①敷地・建物（病院部分）

敷地 26,325m²

建物 地上6階建 20,400m²

合計 46,725m²

②病床数

284床（一般病床272床、結核4床、感染4床、HCU4床）

③診療科目（23科）

内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、内分泌・代謝内科、膠原病リウマチ内科、脳神経内科、循環器科、小児科、外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻いんこう科、眼科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

④職員数

595人（医師59人、看護師277人 他 ※令和6年3月31日現在）

⑤特殊施設

HCU、NICU、外来化学療法室、血液浄化センター

⑥その他

臨床研修指定病院



イ. 診療状況の概況

○患者数（令和5年度）

外来患者延数 157,613人（一日平均 651人）

入院患者延数 89,496人（一日平均 244人）

（3）隠岐島前地区巡回診療

昭和7年に支部巡回診療所設置に当たり、「日本赤十字社島根県支部巡回診療班規定」及び「施行細則」が定められ、県内各地における巡回診療が開始された。現在は、隠岐島前地区のみを対象として、町村分区の要請により赤十字病院から医師、看護師等を派遣し、無料の巡回診療を実施することとしている。 ※令和5年度 実施なし

7. 血液事業

(1) 島根県赤十字血液センター

昭和40年2月1日松江赤十字病院分病棟内に移動採血車が配備され、全県で移動採血による200mL献血と、医療機関への血液供給業務を開始した。

その後、昭和41年1月に、松江赤十字病院本院構内で事業を開始し、昭和55年9月には同病院の新館建設に併せ、併設社屋が完成した。

昭和61年4月から、新たに400mL献血、成分献血がスタートしたが、新しい血液事業に対応するため、平成2年3月に、松江市大輪町の県有地に新社屋を建設し現在に至る。

一方、県西部の採血拠点として、昭和41年8月、益田赤十字病院内に益田出張所を開設し、県西部の移動採血を開始した。平成5年同病院の増改築に伴い同病院敷地内に新社屋を建設した。

また、平成22年5月には、出雲市に献血ルーム「ふれあい」を開設した。

輸血用血液の安全性を強化する取り組みとして、平成7年7月から全国統一システムが導入され、平成11年6月からは全国の献血場所で、安全性にかかる情報や今までの献血状況が参照できるようになり、現在では血液事業情報システムとして、経理・用度機能、献血・採血管管理機能、製造管理機能、販売管理機能、情報統計機能が稼働している。

平成11年10月からのNAT（核酸増幅検査）の導入、平成15年7月30日には血液製剤の安全性の向上、安定供給の確保及び適正な使用の推進のために「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」が施行された。

平成17年10月より検査目的の献血等を防止するために献血受付時の本人確認、感染症の調査を見直し、安全対策として新鮮凍結血漿製剤の180日間貯留保管、保存前白血球除去を開始し安全な血液確保に努めている。また、採血による献血者等の健康が害された場合の措置として平成18年10月1日から「献血者健康被害救済制度」が導入された。

平成19年4月、輸血用血液の安全性確保と効率的な事業運営を行うために島根県赤十字血液センターで実施していた検査業務を、また平成20年3月28日からは製剤業務を広島県赤十字血液センターへ集約した。

平成23年4月、それまでの血液製剤の供給業務委託を廃止し、血液センターからの供給を開始した。同年10月には西部地区の供給業務拠点として浜田市に供給出張所を開設した。

平成24年4月、都道府県単位で行っていた事業を、全国に7つの本社直轄施設を設置して事業を実施するため、広島市に中四国ブロック血液センターが設置され検査・製造、需給管理等をブロック単位で集約、安全で均質な血液製剤を安定的に供給する広域的な事業運営体制が開始された。

県内における効率的な事業運営を考慮した結果、平成26年8月31日には出雲市の献血ルーム「ふれあい」業務を、平成29年3月31日に益田市の益田出張所業務を松江市の島根県赤十字血液センターへ集約した。

平成26年3月より島根県赤十字血液センターの愛称を献血ルーム「だんだん」とし、県内唯一の常設献血ルームとして広く県民の皆様へ献血の協力を呼びかけるとともに、平成28年度からは複数回献血クラブ会員サイトを一新し、全国共通のポイント制度を導入するなど、より一層サービスの充実を図った。

また、新たに分割血小板成分献血の導入などの取り組みを行い、必要な血液量を効率的かつ安定的に確保するよう努めた。



ア. 令和5年度採血計画及び実績

①採血目標数 21,647人

②献血実績数 21,161人

1) 月別献血状況

(単位:人)

月区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
献血ルーム (松江)	865	844	808	846	863	832	851	857	817	815	797	773	9,968
移動採血車	976	1,029	953	812	921	921	947	869	1,003	997	888	877	11,193
計 (人)	1,841	1,873	1,761	1,658	1,784	1,753	1,798	1,726	1,820	1,812	1,685	1,650	21,161

2) 市町村別献血状況

(単位:人)

市町村	献血者数		
	200ml	400ml	成分
松江市	0	3,319	0
浜田市	0	699	0
出雲市	0	4,144	0
益田市	0	543	0
大田市	0	477	0
安来市	0	342	0
江津市	0	396	0
雲南市	0	492	0
奥出雲市	0	211	0
飯南町	0	161	0
川本町	0	70	0
美郷町	0	27	0
邑南町	0	209	0
津和野町	0	30	0
吉賀町	0	73	0
隠岐の島町	0	0	0
海士町	0	0	0
西ノ島町	0	0	0
知夫村	0	0	0
母体 (松江)	61	2,609	7,298
小計	61	13,802	7,298
合計			21,161

イ. 血液製剤の供給

輸血療法は、適正に行われた場合には極めて有効性が高いことから、広く行われている治療法である。そのため、血液製剤は医療上不可欠のものとされ、他の医薬品と同様、医療需要を満たすための安定供給が求められている。

血液センターでは、輸血を必要とされる患者様に確実、迅速に血液をお届けできるよう供給本数を予測し、それに基づいた採血を行い、日々の在庫管理とWeb発注システムを使用した発注を推進し医療機関から確実迅速に血液製剤の発注をしていただけるように努めている。

また、原材料に由来する感染のリスク等について特段の注意を払う必要があることや、献血者の方からの善意によりいただいた血液であることを十分に認識する必要があることから、医療機関へは「輸血療法の実施に関する指針」に基づき、血液製剤の適正使用をお願いするとともに、血液製剤の安全性に関する情報の収集及び提供を行っている。

○血液製剤供給数

製剤品名		単位数	比率	製剤品名		単位数	比率
照射人全血液 -LR	200mL由来	0	0.000%	照射濃厚血小板	成分由来 1 単位	0	0.000%
	400mL由来	0	0.000%		成分由来 2 単位	0	0.000%
照射解凍赤血液 -LR	200mL由来	0	0.000%		成分由来 5 単位	10	0.015%
	400mL由来	0	0.000%		成分由来10単位	35,100	51.643%
赤血球液 -LR	200mL由来	0	0.000%		成分由来15単位	0	0.000%
	400mL由来	100	0.147%		成分由来20単位	0	0.000%
照射赤血球液 -LR	200mL由来	2	0.003%	濃厚血小板 HLA	成分由来10単位	0	0.000%
	400mL由来	23,846	35.085%		成分由来15単位	0	0.000%
洗浄赤血球 -LR	200mL由来	0	0.000%		成分由来20単位	0	0.000%
	400mL由来	0	0.000%	照射濃厚血小板 HLA	成分由来10単位	340	0.500%
照射洗浄赤血球 -LR	200mL由来	0	0.000%		成分由来15単位	0	0.000%
	400mL由来	8	0.012%		成分由来20単位	0	0.000%
照射合成血 -LR	200mL由来	0	0.000%	照射洗浄血小板	成分由来10単位	400	0.589%
	400mL由来	0	0.000%	照射洗浄血小板 HLA	成分由来10単位	0	0.000%
新鮮凍結血漿 -LR	200mL由来	0	0.000%	換算単位数合計		72,204	67,966
	400mL由来	6,124	9.010%	濃厚血小板	成分由来5単位	2,036	2.996%
	成分由来5単位	2,036	2.996%		成分由来1単位	0	0.000%
	成分由来2単位	0	0.000%		成分由来2単位	0	0.000%
	成分由来5単位	0	0.000%		成分由来5単位	0	0.000%
	成分由来10単位	0	0.000%		成分由来10単位	0	0.000%
	成分由来15単位	0	0.000%		成分由来15単位	0	0.000%
	成分由来20単位	0	0.000%		成分由来20単位	0	0.000%

(2) 献血運動の推進

日本赤十字社では、昭和40年以来、毎年7月に「愛の血液助け合い運動」を厚生労働省、各都道府県と共に実施している。また、昭和49年以来、民放連の協力を得て実施している「はたちの献血キャンペーン」を1月～2月の2ヶ月間実施している。

令和5年度においては、献血啓発事業として「つなげ、その「ち」から。」プロジェクトを1年間実施している。

ア. 愛の血液助け合い運動〔実施期間：令和5年7月1日～7月31日〕

本年の献血キャンペーンは、厚生労働省、都道府県、日本医師会など、数多くの関係団体や機関の後援のもとに、広く国民各層に対し、献血への理解と協力を呼びかけた。夏場は特に、企業、団体、学校などが長期休暇に入り、献血者が少くなりがちなため輸血用血液の安定的確保を図っていくための広域的な運動を展開した。

イ. はたちの献血キャンペーン〔実施期間：令和6年1月1日～2月29日〕

献血者が減少傾向にある冬期において、安全な血液製剤の安定供給の確保を図るため、「はたち」の若者を中心に、献血に関する理解と協力をお願いした。大学、高校等にポスターを掲示し若い年齢層へのPR活動を実施。また期間中、献血へご協力いただいた10代、20代の方に、はたちの献血オリジナルステッカーセットを配布し、若年層を中心に多くの協力を得た。

ウ. 「つなげ、その「ち」から。」プロジェクト（実施期間：令和5年9月7日～令和6年4月30日）

「つなげ、その「ち」から。」プロジェクトは少子高齢化に伴い献血者が年々減少を続けている現状に対して、献血を通じて体験できるいくつもの出会いや感動を届け、継続的に献血へのご協力をいただき、輸血用血液を医療機関へ安定的に供給すること、国民の日常生活がニューノーマルへと変容している今、新しいワークスタイルや学習スタイルに対応した献血推進を目的に、キャンペーンキャラクターに芦田愛菜さんを起用しプロモーションを展開した。

8. 社会福祉事業

(1) 松江赤十字乳児院

松江赤十字乳児院は、昭和24年に松江市立乳児院として創設され、松江赤十字病院が運営にあたっていた。昭和32年、設置主体が松江市から日本赤十字社に移管され、施設名も松江赤十字乳児院となり、県内唯一の乳児院としてその責務を果たしてきた。



平成21年4月には松江市母衣町から南田町に院舎の移転新築を行った。

平成30年度に『小規模ケア棟』を増築し、以降、養育単位の小規模化を進め、より家庭に近い環境でのケアを取り入れるなど、施設の機能強化に努めている。

○令和5年度の施設利用者数（延）

項目	利用者数（人）
乳児院延入所児数	7,692
育児相談等来所数	189
病児保育利用者数	440

(2) 県内児童福祉施設への援護（『児童福祉施設支援金』の贈呈）

県内の児童福祉施設に入所している子どもたちのために、青少年赤十字メンバー、赤十字奉仕団員等からの支援金の寄託を受け、県内13の児童福祉施設へ贈呈した。本義援金募集は、昭和38年度に「年末義援金」と称して開始し、本年度で61回目となる。

ア. 受付額 352,339円（57件）

イ. 贈呈額 352,339円 ※配分内訳は以下のとおり

施設種類別	施設名	配分額（円）
乳児院	松江赤十字乳児院	27,816
児童養護施設	社会福祉法人双樹学院 双樹学院	64,896
	社会福祉法人せんだん会 安来学園	49,446
	社会福祉法人三隅愛育会 聖喧寮	35,541
児童心理治療施設	社会福祉法人親和会 児童心理療育センターみらい	21,636
児童自立支援施設	島根県立わかたけ学園	26,271
福祉型障害児入所施設	社会福祉法人山陰家庭学院 松江学園	24,726
	社会福祉法人親和会 さざなみ学園	37,086
	社会福祉法人邑智福祉振興会 くるみ邑美園児童部	10,821
	社会福祉法人いわみ福祉会 こくぶ学園	29,361
	社会福祉法人博愛 仁万の里児童部	6,187
医療型障害児入所施設	社会福祉法人島根整肢学園 松江整肢学園	7,731
	社会福祉法人島根整肢学園 島根整肢学園	10,821
合 計		352,339

9. 国際活動

現在、世界における赤十字・赤新月社数は191社（一国一社の原則）である。日本赤十字社はその一員として赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国の赤十字（赤新月）社と連携し、国際援助・協力を行っている。

当支部においても緊急援助と開発援助のいずれにおいても積極的に推進している。



参考：ジュネーブ4条約締約国 196カ国

日本政府が承認している独立国家数 196カ国

国連加盟国数 193カ国

（1）海外救援金の取扱い

紛争、風水害、干ばつ等による被災住民や難民への救援活動については、国際赤十字・赤新月社連盟を中心に一層の努力を傾注して救援活動を展開している。

日本赤十字社でも救援グループの有力なメンバーとして、人的、物的ニーズに応じた救援を行っている。当支部においては、救援金の受付を行い、本社を通じて送金している。

○海外救援金の取扱い（集計期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日）

No	受付項目	件数(件)	金額(円)
1	中東人道危機救援金	3	48,771
2	バングラデシュ南部避難民救援金	2	15,000
3	アフガニスタン人道危機救援金	3	28,049
4	ウクライナ人道危機救援金	96	1,570,937
5	2023年トルコ・シリア地震救援金	29	1,040,906
6	2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	4	23,924
7	2023年モロッコ地震救援金	19	52,060
8	2023年リビア洪水救援金	7	24,474
9	2023年アフガニスタン地震救援金	6	78,738
10	イスラエル・ガザ人道危機救援金	25	1,809,263
合計		194	4,692,122

（2）中四国（第5ブロック）各県支部共同国際救援事業

中四国各県支部が共同して資金を拠出し、アジア・大洋州地域の洪水やサイクロンなどの災害に見舞われる国や地域に対して「給水・衛生災害対応キット」資機材の備蓄を継続して支援している。

なお、本年度の拠出額は次のとおり。

令和5年度事業費総額	7,000,000円
島根県支部拠出額	679,559円



(3) 第41回 NHK海外たすけあいキャンペーン

日本赤十字社の行う国際活動（緊急援助、開発協力）は、本キャンペーンによる救援金等を財源として実施されている。

当支部においては、NHK松江放送局をはじめ、山陰合同銀行、島根県農業協同組合、島根県信用漁協連等の協力のもと、下記のとおり救援金の募集及び受付を行った。

ア. 実施期間 令和5年12月1日～25日

イ. 取扱状況（令和6年3月31日現在）

受付場所	件（件）	金額（円）
日本赤十字社島根県支部	1,126	270,655
NHK松江放送局	25	197,252
金融機関（山陰合同銀行・県農業協同組合・県信用漁協連分）	45	462,100
郵便振替（日本赤十字社 ※本社取扱分）	187	2,317,962
合計	1,383	3,247,969

(4) 国際人道法セミナーの開催

実施日	地域	主催・依頼団体	受講者数
6月7日	松江市	青少年赤十字指導者協議会（ホテル白鳥）	54
8月10日	大田市	大田市学校教育研究会（アステラス）	60
12月19日	雲南市	島根県東部農林水産振興センター雲南事務所（島根県雲南合同庁舎）	127
受講者合計			241

